

# 時局日誌 (五十三)

Y H 生

一月十三日

地方官々制中改正 (東京府、京都府、大阪府、神奈川縣、兵庫縣、愛知縣及福岡縣の總務部長並大阪府の警察部長を勅任と爲すの件) (勅令第一號)

鐵鋼統制會統制規程 (商工省告示第一八號) 公布

拓務事務官 中野 勝次  
 任拓務省管理局長  
 兵庫縣書記官 篠山 千之  
 任東京府書記官 (二) (總務部長)  
 宮城縣書記官 多湖 實夫  
 任大阪府書記官 (二) (總務部長)  
 京都府書記官總務部長 野間 正秋

高等官二等

大阪府書記官 彌坂 信  
 警察部長  
 神奈川縣書記官 柴山 博  
 官總務部長  
 兵庫縣書記官 松原 久人  
 總務部長  
 愛知縣書記官 山田 武雄  
 總務部長  
 福岡縣書記官 沖野 悟  
 總務部長  
 岡山縣書記官 金井 元彦  
 警察部長  
 任内務省書記官 (警保局檢閱課長)  
 內務書記官兼監査官 川上 和吉  
 免兼官 (國土局計畫課長命ス)  
 愛知縣書記官 安積 得也  
 任東京府書記官 (經濟部長)

內務書記官檢閱課長 高橋 三郎  
 任神奈川縣書記官 (警察部長)

福岡縣書記官 竹谷源太郎  
 任兵庫縣書記官 (警察部長)

內務事務官監査官 青木 重臣  
 任千葉縣書記官 (警察部長)

秋田縣書記官 岡本三郎助  
 任栃木縣書記官 (經濟部長)

岩手縣書記官 永野 俊雄  
 任三重縣書記官 (警察部長)

內務書記官 重成 格  
 國土局計畫課長  
 任愛知縣書記官 (經濟部長)

和歌山縣書記官 安田 穰  
 任愛知縣書記官 (警察部長)

時局日誌

七五

大阪地方警視(特高) 田代 保雄

任山口縣書記官(警察部長)

依願免本官 福島縣書記官 相野田彌平

任滋賀縣書記官(警察部長)

厚生書記官 伊藤 清

同 高知縣書記官 上原 參良

神奈川縣書記官 久安 博忠

任和歌山縣書記官(總務部長)

同 栃木縣書記官 石川貞四郎

任宮城縣書記官(總務部長)

石川縣書記官 工藤 太郎

休職 秋田縣書記官 林 重房

福岡縣書記官 野村 義平

任德島縣書記官(警察部長)

同 岡山縣書記官 高橋 一郎

任福島縣書記官(總務部長)

鹿兒島縣書記官 飯野 定一

同 愛媛縣書記官 手島 傳

警視廳警視 和久田鎮雄

任愛媛縣書記官(經濟部長)

同 大本營發表 一、タラカン方面帝國海

任岩手縣書記官(經濟部長)

藤野 英陽

軍艦艇は、十三日タラカンを脱出せんと

警視廳事務官 藤井 重雄

任高知縣書記官(總務部長)

する和蘭軍艦プリンス・ファン・オラニエ

任岩手縣書記官(警察部長)

三重縣書記官 遠林 正吉

(一千二百九十一ト)を撃沈せり、なほ

内務事務官(北京駐在) 田中 檜一

任福岡縣書記官(經濟部長)

同方面帝國海軍航空部隊は十二日蘭印の

任秋田縣書記官(警察部長)

山口縣書記官 本田 忠男

双發爆撃機一機、B十七爆撃機一機を撃

地方事務官 伊藤 英三

任福岡縣書記官(警察部長)

破せり。

任秋田縣書記官(學務部長)

神奈川縣商工課長 鶴田 義隆

二、メナドを占領せる帝國海軍特別陸

佐賀縣書記官 乾 伊太郎

任佐賀縣書記官(學務部長)

戰隊は所在の敵を撃破し、トンダノに進

任石川縣書記官(學務部長)

愛知縣事務官 栗原 隆平

撃、ケマに上陸せる別動のわが特別陸戰

千葉縣書記官 猪俣 二郎

任宮崎縣書記官(學務部長)

隊と合同し、本十三日カカス飛行場を占

任岡山縣書記官(警察部長)

鳥根縣書記官 加藤 精三

領せり、右作戰に参加せる帝國海軍航空

宮崎縣書記官 柴田 高義

任鹿兒島縣書記官(學務部長)

部隊は同方面において敵ロツクヒード・

任岡山縣書記官(學務部長)

東京府事務官 松岡 一郎

ヘドソン重爆撃機四機ほか敵重爆撃機三

滋賀縣書記官 渡邊 次郎

任島根縣書記官(學務部長)

機を撃墜せり。

(撃沈されたオランダ軍艦プリンス・ファン・オラニエ號は千九百三十一年八月竣工した敷設艦で排水量千二百九十一トン、三インチ高角砲、四十ミリ高角砲、十二・七ミリ高角砲各二門を有し、長さ二百十六呎、幅三十六呎、吃水十一呎、この艦はタラカン島バリラクパバンの間を常に巡回して警戒の任に當つてゐたが、わが軍の上陸に遇ふや慌てて遁走せんとして逆に十三日撃沈されたもの。)

蘭印側發表 UPベタウイヤ電によれば蘭印政府は十三日午後左のごとく發表し、タラカン失陥を自認した「タラカン防備の蘭印軍は降伏し、駐屯軍の一小部分はボルネオ本島向け撤退した」

大本營發表 戦爆連合の帝國陸軍航空部隊は昨十二日大編隊をもつて二回にわたりシンガポール飛行場を攻撃し、多大の戦果を収めたり、その状況左の如し。  
正午頃攻撃せる部隊はジョホール上空において敵バツファロー戦闘機十五機と

遭遇、激烈なる戦闘を交へ、確實にその十機を撃墜するとともに、引續きテンガ飛行場を襲撃し、飛行場諸施設を爆破し、且ブレンハイム一機を撃墜したる後わが方全機無事歸還せり。さらに同日午後二時攻撃せる有力なる一隊はセクタール空において退避せんとする敵バツファロー戦闘機十機を發見、直ちにこれに猛烈なる攻撃を加へその五機を確實に撃墜せり。

影珠山(長沙東北方二十五キロ)附近の既設陣地に據る第九戦區の新編十、同十一、百二十三、百十三各師の敗殘兵は去る九日夜わが白隼隊の強襲攻撃により附近の山中に遁走したが、その後わが荒鷲の猛爆と地上部隊の包圍縮小によつて各處で殲滅され、あるひは投降者續出し、十三日までには全く潰滅し去つた。  
わが戦果は次のごとし。  
遺棄死體四、三六九△捕虜二〇五△鹵獲品重機五輕機四七小銃三八六その他多

數。

DNB通信によれば、昨年十一月二十六日獨政府公表の戦況發表中、チーゼンハウゼン中尉指揮の一獨潜水艦が北阿ソルム沖合で、英戦艦一隻に魚雷を命中せしめた旨述べられてゐるが、その後英軍捕虜の言明により、右英戦艦は三萬一千百トンの戦艦バラム號で、魚雷命中後直ちに沈没せる事が判明した。

一月十四日

通行稅施行細則中改正(大藏省令第三號)公布

大本營發表 病院船哈爾賓丸は一月十日朝南支那海において敵潜水艦の攻撃を受け沈没せり。乗組員および患者の大部は救助せられたるも、六名はなほ行方不明なり。右は明治四十年一月十二日ヘーグにおいて締結せられたる「ジエネヴァ條約の原則を海戦に應用する條約」に違反せる非人道行爲にして、帝國の最も遺憾とするところなり。

大本營發表 帝國陸軍航空部隊は、一昨十二日晝間シンガポール周邊の敵飛行基地を二回にわたり大爆撃を敢行したるところ、同日夕刻さらに有力なる戦爆連合の大部隊をもつて第三次空襲を決行し、シンガポール軍事諸施設を粉碎するとともに、前二回にわたるわが猛攻に士氣沮喪し、急遽退避せんとせるバツファロー戦闘機六機を捕捉し、これに痛烈なる猛攻を加へ、その四機を確實に撃墜せり。

大本營發表 帝國潜水艦は、十二日夕刻ハワイ西方洋上において米國太平洋艦隊所屬航空母艦「レキシントン」型一隻（三萬三千トン）を雷撃、魚雷二本命中を確認したるところ、敵驅逐艦の制壓をうけ潜没せるため、該航空母艦の沈没を確認するに至らざりしも、潜没中二回にわたる大爆發を聽音せるをもつて同艦は沈没せること確實なるものと認む。

（註）潜没とは潜水艦の必要に應じ急速

に潜望鏡もるとも潜航する動作をいふ。日本馬事會設立認可さる。

メルボルン來電によれば、當地消息筋では濠洲が、太平洋の一般戦略に關しては直接米國と交渉してゐる旨を明にした。濠首相カーチンはルーズベルト・チャーチル會談の最中、先手を打つてルーズベルト親電を發し、濠洲側の見解を傳へたが、右交渉は既に極めて具體的な局面に到達したと云れ、兩國間の關係は自治領の慣例を變更するものである。

一月十五日

昭和十七年臨時徴兵検査規則（陸軍省令第三號）昭和十七年徵募事務の特例に關する件（陸軍省令第四號）甘藷及馬鈴薯最高販賣價格指定昭和十六年九月告示第六七三號中改正（農林省告示第二八號）農機具最高販賣價格認可（農林省告示第二九號）反毛落屑、落麻落屑及更生糸フ紡再落屑梳解落屑及機下再落屑最高販賣價格指定（商工省告示第二一號）紡績落

棉、落棉二番振及綿粉販賣價格指定昭和十五年九月告示第五二四號中改正（商工省告示第二二號）新纖維最高販賣價格指定（商工省告示第二三號）絹糸布屑、人造絹糸布屑、ステープルファイバー糸布屑及麻糸布屑等購入及販賣價格指定昭和十六年五月告示第三七九號中改正（商工省告示第二四號）醫藥品最高販賣價格指定昭和十六年八月告示第九號中改正（商工厚生省告示第一號）公布。

第二十七回、支那事變生存者論功行賞

（陸軍省第二十二回）は十五日賞勳局ならびに陸軍省から發表された。今回行賞の恩命に浴したのは中支の警備肅正に任じ、九宮山作戰、陸水作戰などに活躍した天谷（直）部隊、北支の肅正警備に偉功を樹てた吉澤（忠）、柳下（重）、鈴木（利）、關（原）、秋山（義）、秦（雅）、水原（義）の三部隊、中支の警備肅正に任じ廬山攻略戰などに拔群の功績をあげた中山（傳）、藤堂（高）部隊および事變地勤務に服

し、第一次功績期間に解隊した部隊から上申された軍人（將官を除く）および軍屬と既發表部隊に屬する一部の將官（佐官で奏功しその後將官に進級したるものを含む）とで、そのうち殊勳により金鷲勳章を授賜されたものは四百三十七名、武功拔群の殊勳甲は五名である。

大本營發表表 メナド方面帝國海軍特別陸戰隊は昨十四日までにセソベス島北部ミナハサ州一帶の敵要地を攻略し、敵航空基地を占領せり。同作戰において戰車野砲、機銃、小銃および爆彈その他軍需品多數を鹵獲せり。

大本營發表表 一、帝國海軍航空部隊は十二日セレベス島中部東岸トモリ灣コロネダレ水上航空基地を攻撃し、飛行機格納庫大小九個、兵舎二群その他を爆破炎上せしめ、その一部隊はジロロ島テルナテを攻撃し、大倉庫二個を爆破五ヶ所に大火災を生ぜしめたり。

二、帝國海軍航空部隊は本十五日まで

にニューギニアの西部バボ、ソロン、モルツカ諸島のアンボン、ニューブリテン島のラポール等に對し數次の攻撃を取行し、その重要軍事施設を炎上又は爆破せり。

大本營發表表 一、帝國海軍艦艇は九日我航空部隊と協力して〇〇方面に於て敵潜水艦二隻を撃沈せり。

二、蘭印方面行動中の帝國潜水艦は本十五日までに敵船四隻計二萬七千トンを撃沈せり。尙同方面帝國海軍艦艇は商船三隻計四千トンを拿捕せり。

十五日附ロンドン・タイムスの報としてストツクホルムより傳ふところによれば、開戦以來日本軍によつて捕虜となつた英國人は、非戰鬥員の拘禁を含めて約三萬名に上り、その内一萬八千名は香港およびその附近で捕へられたものである。

ロンドンアヴァス電に依れば、ポルトガルの駐英大使モンテイロ氏はこの程英

人の使用人を解雇し、家族をつれて歸國の途についた。英葡兩國關係の前途を示唆するものとして注目されてゐる。

今次長沙作戰における綜合戰果につき中支軍より左の如く發表された。

確認せる敵遺棄死體五七、三〇〇、捕虜一、九五〇、鹵獲品山砲一二、迫撃砲六三、重機一二〇、輕機五五五、小銃五四二四、擲彈銃及び筒四六二各種砲彈無數。

#### 一月十六日

重要礦物指定令（勅令第二〇號）石油販賣價格指定昭和十五年四月告示第一二七號中改正（商工省告示第二五號）ステールファイバー及ステールファイバー糸最高販賣價格指定昭和十五年一月告示第一四號中改正（商工省告示第三四號）毛紡式ステールファイバー織物（梳織織物）販賣價格指定昭和十五年十一月告示第七三四號中改正（商工省告示第三六號）公布。

大本營發表 マレー方面帝國陸軍航空部隊は、昨十五日午後戰爆連合の大編隊をもつて午前引續き密雲を衝いて再度シンガポール大空襲(第五次)を敢行、その上空において遁走せんとする敵戰鬥機群を捕捉して壯烈なる空中戰を展開し、忽ちバツファロー戰鬥機八機を撃墜、さらに悠々爆撃を實施し、センバワンおよびテンガー飛行場に猛爆撃を加へて、敵空軍施設を粉碎多大の戦果を収めたり。また他の一隊はマレー東岸の要衝エンダウを急襲し、市内の重要軍事施設ならびに港内の船舶を爆撃、大火災を生ぜしめるとともに、同市附近に飛來せる敵偵察機一機を撃墜せり。なほ同日午前午後の綜合戦果左の如し。

撃墜敵機十六機、地上撃破七機、計二十三機にしてわが軍の損害は友軍戦線内に不時着せるもの二機なり。

大本營發表 マレー方面帝國海軍航空部隊は昨十五日マレー半島一帯の密雲を

冒し、大編隊を以て第十五次シンガポール長距離偵察並に爆撃を敢行し、シンガポールテンガ飛行場、ジョホールバル西方スクダイ飛行場及びクルアン飛行場等を強襲し、その重要軍事施設に大損害を與へたり。當時敵の防禦砲火熾烈なりしも我方損害なし。

大本營發表 一月十日までにおける帝國海軍の撃沈、拿捕せる敵船舶並に帝國船舶の損失累計左の如し。

一、敵船舶撃沈、拿捕果計(イ)撃沈潜水艦によるもの二十隻十三萬二千トン 飛行機によるもの十隻五萬七千トン 右以外によるもの一隻二千トン(ロ)拿捕七十八隻十七萬一千トン、總合計百九隻三十六萬二千トン。

二、帝國船舶損失累計 陸海軍民用合計十一隻、四萬六千八百トン、なほ開戦以來帝國船舶にして拿捕せられたるものなし。

大本營發表 戰爆連合の帝國陸軍航空

大部隊は昨十五日晝間第四次シンガポール強襲を敢行し、左の如き戦果を収めたり。

一、重爆撃隊は午前十一時四十五分シンガポール上空に進入し、同市並びにセリター市街の重要軍事施設を反復爆撃しこれに大火災を生ぜしめたり。同行せる我戰鬥隊は爆撃隊に協同してテンガー飛行場を低空攻撃し、陸上にありし爆撃機七機を徹底的に銃撃破せり。

二、後續せる他の有力なる戰鬥隊は四千米の上空においてわが威力に慄伏し、遁走せんとする敵バツファロー戰鬥機十三機を發見、これに猛烈なる攻撃を加へ同時にしてこの七機を撃墜せり。我に損害なし。

大日本翼賛壯年團の成立式は十六日午後三時から大政翼賛會本部に開かれ、地方團體の方がまだ成立途上にあるので、中央の役職員と翼賛會本部職員のみが参集して挾間翼賛會組織局長の結成經過報

告のち、東條翼賛會總裁より告辭があり、翼賛壯年團の目標は帝國現下の情勢に鑑み何よりも國家の要請を明確に認識し、これを實踐推進する力を結集するたため、全國青壯年の精銳をすぐた組織たらしめるにあることを力説した。次いで安藤壯年團長、横山翼賛會事務總長の式辭があつて散會した。

情報局發表 本月十九日午前十時より内閣總理大臣官舎に樞密院議長及び嘗て内閣總理大臣たりし人々の參集を求め戰爭遂行の情況の説明を行ふこととした。なほ正午内閣總理大臣および關係各閣僚等と食事を共にする豫定である。

ストツクホルム通信によれば、英海軍はアフリカのギニア灣内へメイン領フェルナンド・ポール島のサンタ・イサベラ港に侵入、同港に碇泊中の獨伊兩國船に砲撃を加へた。しかして中立國の立場を無視せるこの海賊的ゲリラ行爲はルウエーにおける手と全く同じであり、スペイン

朝野をいたく憤慨させてゐるが、これに對するスペイン政府の態度はいまだ明かにされてゐない。

### 一月十七日

味噌醬油等配給統制規則（農林省令第六號）故又は屑のゴム（輸入品を除く）最高販賣價格指定（商工省告示第三七號）公布。

内務事務官（警保局）兼外務事務官 上田 秀雄  
任青森縣警察部長

青森縣書記官 松下 一

任内務事務官  
哈爾濱駐在を命ず  
大分縣書記官 大森 健治

任長野縣書記官（警察部長）  
内務事務官  
（哈爾濱駐在） 松尾 楸

任大分縣書記官（警察部長）  
長野縣警察部長 豊原 道也

生活局住宅課長を命ず  
大本營發表 マレー方面の帝國陸軍部隊は一昨十五日正午頃マレー西岸の要衝

マラツカを攻略し、引續き敗敵を急追中なり。

十四日タマラツカ州に突入したわが〇部隊は、十五日午前十時三十分同州の首都マラツカタウンに堂々入城、たちまち全市の掃蕩を終り、引つゞき〇〇に向つて進撃を開始した。

大本營發表 一、帝國海軍特別陸戰隊は、十二日陸軍部隊と協力し、タラカン飛行場を占領せり。二、我が占領下のタラカン泊地哨戒中の帝國海軍航空部隊は十三日敵双發爆撃機四機を撃墜せり。三、タラカン方面作戦において我方掃海艇二隻を失へり。

### 一月十九日

醫療關係者徵用扶助規則（厚生省令第三號）苦汁殘滓里加、アルミナ副産加里肥料及苦汁加里鹽を原料とする三〇加里肥料販賣價格指定（農林省告示第三五號）麥芽最高販賣價格及加工賃指定（農林商工省告示第一號）銑鐵（木炭銑、低燐銑

及其他の特殊銚を除く)最高販賣價格指定(商工省告示第四三號)公布。

大本營發表 十八日柏林において日獨

伊三國間の軍事協定調印せられたり。該

協定は主として三國共通の敵に對する三國協同の作戰指導の要綱を決定せるものなり。署名者は日本側參謀總長、軍令部

總長各代理、獨側は國防軍總參謀長、伊

側は總軍參謀本部代表なり。

大本營發表 戰爆連合の帝國陸軍航空

大部隊は昨十七日、前日に引續きシンガポールに大空襲を敢行し、重要軍事施設

ならびに市街周邊の飛行基地に對し甚大なる損害を與へたり。その狀況左のごと

し。

一、我が有力なる爆撃隊は折からの快晴を利用し、午後零時十五分シンガポール上空に進入、英東亞軍司令部その他市街中樞部の重要軍事施設に多量の大型爆彈を投下、これに命中せしめ大火災を生ぜしめると共に、ついでセレーター水上飛

行基地を強襲し、大型(四發)飛行機(シヨートサンダーランド)四機を炎上、同一機を大破せしめたり。

二、他の有力なる一隊は午前十時二十

五分テンガー飛行場を大舉襲撃し、す

でに戰意を失ひ地上に屏息しありし大(中)型機十一機を爆撃、これを撃碎せり。

三、我が軍の損害は友軍戰線内に不時

着せるもの一機なり。

大本營發表 帝國陸軍航空大部隊は昨

十八日晝間、前日に引續き戰爆連合して大舉シンガポールを空襲し、これに甚大

なる損害を與へると共に、有力なる部隊をもつて地上部隊の果敢なる追撃作戰に協力し、多大の戰果を収めたり。その

狀況次の如し。

一、多數の戰闘機に護衛せられたる重爆撃隊は、午後一時三十分熾烈なる防空砲火を冒して、シンガポール上空に進入し、市街中樞部の重要軍事諸機關を猛爆するとともに、センバワン南部地區の油

槽群を爆碎し、大火災を生ぜしめたり。

二、同行せるわが有力なる戰闘隊は同

市上空において遁走せんとする敵パツファロー戰闘機十數機を猛襲し、忽ちにしてその十機を撃墜せり。また他の一隊は

同市北方地區において敵パツファロー戰

闘機五機と遭遇、その一機を撃墜せり。

三、地上部隊の追撃作戰に協力中なり

し有力なる戰闘隊は午前九時五十五分、マラツカ附近においてブレーションハイム爆

撃機一機を撃墜するとともに午後二時三十分、さらに同地附近に飛來せるパツフ

アロー戰闘機二機、ロツクヒード爆撃機二機より成る敵編隊を發見、遁走する該

敵を急追して、シンガポール上空にこれ

を捕捉し、その三機(ロツクヒード機二パツファロー機一)を確實に撃墜せり。

四、この日における帝國陸軍航空部隊の綜合戰果は撃墜敵機爆撃機三、戰闘機

十二、計十五機なり。

大本營發表 今回香港占領地總督部



設置せられ、左の通り親補せられたり。

陸軍中將五位 磯谷 廉介  
勳一等功二級

補香港占領地總督

大本營發表 一、比島方面帝國海軍航空部隊は十六日ダバオ南方マリタ及びグラン電信所を爆破、十八日セブ島在泊船舶を攻撃、三千トン級一隻、一千トン級二隻、五百トン級一隻に命中弾を與へたる外、十八日までには數次にわたりコレヒドール要塞を攻撃し、戦果をあげたり。

二、帝國海軍航空部隊はニューギニアラポール飛行場およびブナカナウ飛行場を攻撃、ブナカナウ飛行場においては滑走路及び施設に全弾命中二箇所に大火災を生ぜしめたり。

三、帝國海軍特別陸戰隊は十六日セルベス島最北端リクパンを占領し、附近要地の敵を掃蕩せり。

時局日誌

ンガ飛行場上空において、パツファロー十機を撃墜地上においてブレインハイム七機、ロツクヒード一機を銃撃破、他の一部隊はゼンバリン飛行場を急襲し、撃伏せる敵大型機群ならびに軍事施設に對し猛烈なる攻撃を加へて、敵大型機の數機及び格納庫一棟を炎上、又は爆破し敵戰闘機一機を撃墜せり。

舊臘二十三日、激浪烈風を冒し、帝國海軍部隊が完全に占領した所謂米海軍中央進攻路の中間基地たるウエーキ島の攻略戦は僅か二平方哩とはいへ、敵が千五十五萬餘ドルを投じて砲臺、トーチカ、高角砲陣地、機關銃座等を以て堅め全島を堡壘化し、三千餘名の守備兵がこのいは『海に移した千早城』に據り頑強に抵抗するのを、わが海軍が海上より強襲奪取した激戦であつた。この攻略戦において『眞に鬼神をも泣かしむる』陸戰隊勇士の猛攻の前に、遂にわが軍門に降つた同作戦における俘虜千三百名は、十八

日午前八時横濱港に入港した。

首相官邸に第一回重臣懇談會を開催  
政府側より東條首相兼陸相、島田海相、東郷外相、賀屋藏相、鈴木企畫院總裁、星野書記官長、武藤陸軍省軍務局長、岡本陸軍少將、前田海軍少將、重臣側より若槻禮次郎男、岡田啓介大將、廣田弘毅氏、林銑十郎大將、近衛文麿公、平沼騏一郎男、阿部信行大將、米内光政大將、原樞府議長（清浦奎吾伯缺席）の九氏出席、東條首相より挨拶を爲たのち、陸海軍側よりそれ／＼戦況報告あり懇談に入り、種々重臣側と意見の交換を遂げ零時半終了、午餐をともにして散會した。

一月二十日

織維製品配給消費統制規則（商工省令第四號）船員職業紹介法施行規則中改正（逓信省令第八號）蕎麥及蕎麥粉販賣價格指定昭和十五年十二月告示第六一四號中改正（農林省告示第三七號）布靴最高販賣價格指定昭和十六年九月告示第八六九

八三

號中改正 (商工省告示第四四號) 水銀販賣價格指定昭和十五年十月告示第六五六號中改正 (商工省告示第四五號) 携帶用歐文タイプライター及假名文字タイプライター最高販賣價格指定 (商工省告示第四六號) 纖維製品及其の點數指定 (商工省告示第五〇號) 公布

鑛山監督局長 中村 幸八  
任特許局長官

興亞院調査官 楠瀬 森猪  
任燃料局長官

内務事務官 弘津 恭輔  
大臣官房文書課勤務ヲ命ス

内務事務官 大熊 貞邦  
内務事務官 大山 正

本土局勤務ヲ命ス (各通)

大本營發表 十八日帝國海軍航空部隊第十八次シンガポール爆撃において、わが爆撃隊を援護し歸途につけるわが戦闘機隊九機は、コタチンギ上空において追躡し來れる敵二十數機と斷雲を縫ひつゝ、

猛烈なる空中戦を交へ、敵バツファロー十五機を撃墜せり。我方二機雲下に突入せるまゝ未だ歸還せず、本爆撃隊攻撃にまゝりシンガポール軍港西部施設ならびに重油槽群爆碎せられ、重油槽炎上中

シンガポール發ロイター電に依れば、日本軍は十九日來、ムアー河南岸を續々増強し、英軍が死守せんとするパウナル・ラインに雪崩を打つて殺到し、猛烈なる肉薄戦を展開してゐる。ゲマス地域で日本軍の猛撃を食止めんとする濠洲軍は、英空軍と協力してやうやく包圍網の壓縮を支へてゐる。

イギリス當局は突如、ビルマ首相ウー・ソーを逮捕した旨發表した大東亞戦爭勃發以來イギリス壓制下に呻吟してゐる、全ビルマ人に大きな衝動を與へてゐる。逮捕されたウー・ソー首相はビルマの自治権を要求するため、先般遙るく

英京ロンドンに赴き英國政府と折衝を重ねたものである。しかしその當時ビルマ

人のウー・ソーに對する印象は決して香しいものではなく、彼の提出した要求案は生ぬるいとの悪評を受け非難されたほど親英的な男であつた。

貴族院 午前十時本會議を開き劈頭、東條首相の一般施政方針演説ついで東郷外相の外交演説陸海兩相の戰況報告のち兒玉秀雄伯 (研究) の質問があつて散會。

衆議院 午後一時本會議を開き劈頭、皇軍將士への感謝敬弔決議に對する前線最高指揮官の謝電ならびに、マニラ攻略の祝電に對する同方面最高指揮官の謝電を議長より報告、ついで東條首相の一般施政方針演説、東郷外相の外交演説、賀屋藏相の財政演説があり、陸海兩相の戰況報告のち、岡田忠彥氏 (翼同) の質問があつて散會。

一月二十一日

農業保險國庫負擔金交付規則中改正 (農林省令第七號) 藥品販賣價格指定昭和

十五年三月農林商工省告示第八號中改正  
(農林省告示第三九號)引拔鋼材最高販賣  
價格及最高加工賃指定(商工省告示第五  
三號)ペンリール類、コールドル及其  
ノ製品最高販賣價格指定(商工省告示第  
五四號)ステープルファイバー莫大小製  
品、綿莫大小製品及人絹莫大小最高販賣  
價格指定昭和十六年六月告示第五三四號  
中改正(商工省告示第五五號)公布

東條首相は第七十九議會再開日の二十  
一日、貴衆兩院本會議場、畫期的な施  
政方針演説を行ひ議場に空前的感銘を興  
へた。すなはち東條首相の演説は大東亞  
戰爭の指導要綱ともいふべき點を大膽率  
直に表明し、(一)米英を屈服せしむるま  
ではあくまで戰爭をたゞかひ抜くべきこ  
と、(二)大東亞共榮圏の建設にあたり大  
東亞防衛のため絶對必要な地域は帝國  
自らこれを把握措置すること、(三)この  
意味において香港、マレー半島は東亞禍  
亂の基地たりし點に鑑み、その禍亂を安

除するに止まらず、進んでこの地域を大  
東亞防衛の據點たりしむること、(四)比  
島についてはわが眞意を解し協力すれば  
獨立を與へること、(五)ビルマも比島と  
同様の扱ひとすること、(六)蘭印、濠洲  
も協力的態度をとるにおいては十分の理  
解をもつて力を添ふること、(七)重慶政  
權は徹底的に破砕すること、(八)獨伊と  
の提携協力をいよゝ増強して世界新秩  
序建設のため邁進すること、(九)國內施  
政はまづ作戰第一主義の方針をもつて戰  
争遂行力の強化増進を先決とし軍官民一  
致して總力を集中すべきこと、(十)大東  
亞戰爭遂行と共に日本國民の活動範圍は  
著るしく擴大され、従つてその責任はい  
よゝ重大化し、このため國民の素質向  
上と人口増加を絶對に必要とすることの  
諸點を力説明示した。

大本營發表 帝國陸軍部隊は一月十七  
日「カウメイダクタ」(ヴオイ東北方二十  
八キロ)附近に陣地を占領せる約六百の

敵を夜襲、これを潰滅し、更に同十九日  
未明ダヴオイ附近の敵陣地を攻撃して午  
後七時三十分「ダヴオイ」を完全に占領  
せり。「ダヴオイ」附近攻略の戦果左の如  
し。

鹵獲品 山砲二門、機關銃十一挺、銃  
銃三百十八挺、各種銃彈約十萬發、自動  
車十輛、その他鹵獲品多數、俘虜百五十  
一、遺棄死體五百七十。

現地軍發表によれば、軍は泰、ビルマ  
國境を突破せり、南部においては既に一  
月十五日タヴオイを攻略、北部において  
はモルメン東北地區に進出し、引續き  
進撃中なり。

大本營發表 帝國陸軍航空部隊は昨二  
十日戦爆連合の大編隊をもつてシンガポ  
ール大空襲を敢行、熾烈なる防禦砲火を  
冒して偉大なる戦果を収めたり。その状  
況左の如し。

一、午前十時四十五分シンガポール上  
空に進入せる重爆撃隊は市内軍事、政治

の中樞部に巨弾を連續投下、その全弾を命中せしめ、他の輕爆撃隊は同十時四十九分セレター飛行機組立工場を襲撃、七箇所より火災を生ぜしめたり。

二、重爆撃隊を援護中の我戦闘機隊は挑戦し來れる敵戦闘機ホーカー・ヘリケーン十機と交戦、その七機を撃墜せり、三、我方戦闘機一機いまだ歸還せず。

シンガポール來電によれば泰、ビルマ國境ミッター附近で日本軍と交戦中の英軍はサウスウェルスの新銳軍であると。

ラングーンヴァス電 十六日ラングーン英軍司令部は英軍は泰、ビルマ國境において日本軍と交戦中なりと發表した。

ラングーン當局のコミュニケによれば、十九日日英兩軍はビルマ南部テナセリム地方中樞部で交戦中であり、また一方兩軍はタゾウイからミッターに通ずる街道に沿つて猛烈なる歩兵戦を展開してゐる。

ビルマの戦局に關し、イギリス軍司令

部の發表次のごとし、

『日本軍の追撃急にして、イギリス軍はビルマ南部タゾウイを徹退し、後方の有利な位置に守備線を確保せり、イギリス空軍部隊は、日本軍の占領してゐる某飛行場の上空において、日本航空部隊を反撃したり』

一月二十二日

大本營發表 一、帝國海軍航空部隊は十五日以降連日にわたり蘭印方面一帯に分散せる敵機を求めて、バリツクババン(ボルネオ島)マカツサル、パロポ、コロネダレ、ケングダリー(セレベス島)テルナテ、ラフハ(ハルマヘラ島)アンボン(セラム島)などを攻撃、所在機合計十機(うち飛行艇六)を撃墜破し、各基地施設を爆破せり。

二、帝國海軍航空部隊は十九日スマトラ方面に對し索敵攻撃を實施し、サバン港およびメダン港の港湾施設ならびにサバン港在泊中の二千トン級敵船一隻を爆

破せり。

ジョホール州中部における敵軍の抵抗は執拗なるも、我が軍の進撃はシンガポール街道、西海岸とも逐次進展しつゝあり、すなはちシンガポール街道當面の敵は二十日以來全面的に退却を開始し、

〇〇部隊の小林、丸谷部隊は二十一日午後六時以來、砲八門を有する約一千の敵をラピス西北方十キロ附近において攻撃中、一方西海岸道追撃の〇〇部隊は吉田部隊をもつて二十一日バリストロン(ヨンベン)西方二十キロに達し、目下砲數門を有する敵を攻撃中。

サイゴン發 DNB 來電、バタヴィヤ蘭印軍司令部二十一日の發表左の如し。

「日本機はボルネオの飛行場を空爆し、地上に待機する聯合軍飛行機を爆破した、セレベス島のミナハサ全州は日本軍の占領に歸した。蘭印空軍はマレーの救援に出動して所期の戦果を擧げたが、そのうち數機はつひに歸還せず、また海軍

飛行艇一を失つたが乗員は救助された。  
わが連爆を浴びて今や潰滅一步手前に瀕した英マレー空軍は東亞における最後の據點、シンガポール防備に汲々として數日來さかんにわが最前戦に飛行機を繰出して最後のあがきを見せてゐたが、二十三日に至りわが前線を侵したものはわづかに數機、マレー半島上空には殆んど敵機影を見なくなり、敵機はわづかにシンガポール島の上空を示威するのみである。二十二日もまた我が航空部隊はシンガポール市街中樞部および、その東北に位する繁華街の軍事機關に巨弾を投じ、一隊はテングー飛行場附屬の組立場を爆碎して七箇所より炎上せしめ、戦闘機隊はわが機影を見て逃れ行く敵戦闘機バツファロー十機と交戦六機（内不確實三機）を撃墜した。

ビルマ進入が開始されるや、わが現地軍最高指揮官は二十二日ビルマ千五百萬の民衆に呼びかけ、その自覺を促すため

に左のごとき布告を發した。これはたゞちにビルマ語および印度發に翻譯され、ラジオを通じて放送された。布告の内容は二十一日東條首相の議會演説において明らかにされた帝國の大東亞戰根本方針に則り、皇軍のビルマ進入の目的はビルマ全民衆を搾取と壓政より解放し、その獨立を支援する旨を言明し、堂々と帝國の意圖を闡明したものである。

### 二月二十三日

健康保險法施行令中改正（勅命第三五號）  
健康保險法施行令中改正（勅令第三六號）  
工業所有權戰時法施行令中改正（勅令第三七號）  
精密軸受（輸入品ヲ除ク）最高販賣價格指定（商工省告示第六三號）  
銅地金、錫地金、鉛地金、亜鉛地金及アンチモン地金販賣價格指定昭和十五年六月告示第二七八號中改正（商工省告示第六四號）  
蓄音器用針最高販賣價格指定昭和十六年六月告示第五六五號中改正（商工省告示第六五號）  
硝子製衛生用器最高販

賣價格指定（商工省告示第六六號）  
絹織物販賣價格指定昭和十四年十二月告示第三八六號中改正（商工省告示第六七號）  
綿糸ノ種類及最高價格ニ關スル件昭和十四年八月告示第一九六號中改正（商工省告示第六八號）  
陸海軍拂下毛皮屑ノ加工製品最高販賣價格指定昭和十六年八月告示第七四二號中改正（商工省告示第六九號）公布。

第二十八回、支那事變生存者論功行賞（陸軍第二十三回）は二十四日賞勳局ならびに陸軍省から左の如く發表された。今回恩賞の光榮に浴したものは、左記部隊に屬する軍人（將官を除く）および軍屬と、既に發表せられた部隊に屬する一部の將官（佐官で奏功しその後將官に進級したものを含む）とで、そのうち金鷲勳章を授賜された者は一、二三〇名で、殊勳甲は櫻田武少將以下十三名である。

大本營發表 我國海軍航空部隊は二十一日第十九次シンガポール大爆撃を敢行

せり。戦果左の通り。

一、シンガポール軍事、政治中樞部に全弾命中、數箇所到大火災を生ぜしめた。

二、同港在泊中の敵船二隻を爆撃し一隻を爆沈、他の一隻を大破せり。

三、テンガ飛行場施設を爆撃し敵大型機十一機を炎上又は爆破せる外、挑戦し來れる敵スピットファイア一機を撃墜せり、なほ本攻撃において我が方一機自爆せり。

二十三日わが陸鷲の精銳は大編隊をもつてまた〜ビルマ首都ラングーン飛行場を襲ひ互弾を浴せた。この日ビルマ國筑山嶽地帯の悪天候を衝いてわが陸鷲は午前十一時四十五分(日本時間)ビルマ飛行場上空に至り、小癩にもわれを激撃せんと飛立つた敵戦闘機十機と猛烈な空中戦のち、P四〇型三機、バツファロー一機、スピットファイア二機、中型機一機、合計七機を撃墜し、格納庫その他

飛行場施設を痛爆し、多大の戦果を収めたが、わが方の損害は泰領内に不時着せる一機のほか全機無事基地に歸還した。

廣汎なる作戦と併行すべき大東亞建設の方策に關しては、議會再開劈頭に行はれた東條首相の施政演説によつて、その指導要綱が中外に闡明されたが、二十三日の衆議院豫算總會においては、さらに右指導要綱實現の具體的方策に論議が集中し、櫻井兵五郎氏(翼同)から細目にわたつて質問が行はれた。これに對し東條首相は、さきの施政演説を敷衍し、世界史的意義を持つ大東亞新秩序建設の理念を明確ならしめるとともに、緒戦當初における南方建設の四原則を堂々闡明した。續いて鈴木企畫院總裁より右四原則に基づく經濟建設方策を説明、資源開發の基準と方策、現地の通貨問題、貿易、海運、渡航等現段階における占領地開發の具體策を詳細に答辯した。南方經濟建設に關する首相の基本方針並に企畫院總

裁の具體的説明があつた。

東條首相答辭(要旨) 既に施政方針演説において、又本會議の答辯において述べた通り、帝國は目下國家の總力を擧げて専ら大作戦の遂行に邁進し、屈敵の戦果を擧げるとともに大東亞共榮圏の建設を行はんとするものである。しかしして大東亞共榮圏建設の恒久的方策については十分の準備をととのへて萬全を期する必要があるが、戦争の現段階においてまづ重要資源の需要を充足して當面の戦争遂行に遺憾なきを期すると共に、大東亞自給自足の體制の基礎を確立するといふことを主眼としてゐる。しかししてこれがため具體的方針としては、第一には資源獲得、特に戦争遂行上緊要なる資源を確保すること、第二には南方資源が敵性國家に向け流出するを阻止すること。第三には作戰軍の現地の自活を確保すること、第四には在來の企業の我が方に對する協力を誘導すること。

以上の四點を主眼としてことを進めてゐる次第である。しかしてこれがため實施すべき方策の詳細については企畫院總裁より説明する。

### 一月二十四日

火藥類最高販賣價格指定（商工省告示第七號）電話用端子函及配線函最高販賣價格指定（商工省告示第七一號）高壓コンクリート管（機械製ノモノ）最高販賣價格指定（商工省告示第七二號）綿製勞働作業衣販賣價格指定昭和十五年十二月告示第七九八號中改正（商工省告示第七三號）ザンゼート最高販賣價格指定（商工省告示第七四號）麻混紡スフ敷布最高販賣價格指定（商工省告示第七五號）公布  
大本營發表 一、帝國海軍航空部隊は二十日、二十二日第十九次、第二十一次シンガポール大爆撃を敢行せり。戦果左の通り。

(一)、シンガポール飛行場を爆撃し敵機二十八機（内大型四）を地上撃破せ

り、(二)シンガポール上空において猛烈な空中戦により敵新鋭十八機を撃墜せり。(三)、同港在泊中の特務艦一隻を爆沈せるほか工場地帯、船渠附近施設二箇所ならびに格納庫一棟を炎上せしめたり。  
なほ本攻撃において我方一機を失へり。

(註) 二十三日發表文中、二十一日の十九次とあるは二十次の誤りにつき訂正す

二、帝國海軍航空部隊は二十日、二十一日スマトラ島方面を索敵攻撃し、ベナン島附近において二千トン級敵船一隻を破壊、ラフハンデリー港において四千トン級、六千トン級敵船各一隻を爆沈せる外、同港油槽倉庫を炎上せしめたり。

大本營發表 一、帝國陸海軍部隊は緊密なる協同のもとに、一月二十三日未明敵の抵抗を排除してニューギニア島東方ニューブリティン島ラバウル附近の上陸

に成功し、着々戦果擴大中なり。

二、帝國海軍特別陸戦隊は同日未明、ニューアイルランド島カビエンゲの敵前上陸に成功せり。

日本海軍陸戦隊は、いよゝゝ濠委任統治領ニューブリティン島に上陸作戰を敢行、同島ラバウルの船渠設備の爆破を行ひつゝ退却する同島駐屯隊軍を追つて、つひに上陸を了せりと信ぜられる。すなはち二十二日午後ラバウルよりの無電はその後消息を絶つていたつたのである。  
ラバウルはこの直前日本航空部隊の二回にわたる猛爆を被つてゐた。右日本軍のニューブリティン島進撃の報道は濠洲に多大の衝動を與へてゐる。

大本營發表 帝國陸軍航空部隊は一月二十一日以來マレー、蘭印およびビルマ方面に果敢なる空襲を敢行し、多大の戦果を収めたり。その状況次の如し。

一、一月二十一日 戦爆連合の大部隊は大舉シンガポールを空襲し、市街中樞

部テンガー飛行場、セレター工場地帯を爆撃し、七箇所より火災を生ぜしめるとともに、當時哨戒中なりし敵バツファロ

なる部隊をもつてパレムベンおよびセレター飛行場を攻撃し、次の戦果を収めた

一 戦闘機十機と交戦、その六機を撃墜せり。  
二、一月二十三日 一、ビルマ方面  
陸軍航空部隊はラングーン周辺の飛行場を襲撃し、ビルマ空軍に對し多大の損害を與へたり。その戦果次の通り。

パレムベン攻撃部隊は、長驅千餘キロを突破して午後零時九分、パレムベン飛行場を襲撃し地上にありし、ボーイングB一七型一機を炎上せり。

有力なる戦闘隊は午前十一時四十五分ラングーン上空において敵戦闘機トマホーク、スピット・ファイヤーなど十機と交戦その七機を撃墜せり。又戦爆連合の大部隊は午後二時ミンガラドン飛行場を襲撃し、その滑走路を爆砕するとともに戦闘隊は敵トマホーク十數機と交戦その十二機を撃墜せり。さらに他の有力なる戦闘隊は挑戦し來たれる約三十機の敵戦闘機群と猛烈なる空中戦を展開し、その三機を確實に撃墜せり。我が方自爆一機、未だ歸還せざるもの二機。

2、マレー方面 陸軍航空部隊は有力

連日ラングーン爆撃を續けてゐる陸軍の精銳諸部隊は、二十四日午後一時半まで、ラングーンを襲撃、前日七機を撃墜された敗戦を雪辱せんと、執拗に挑みかかる敵戦闘機Pの群を隨所に捕捉衝撃し、あるひは一騎討の壯烈な空中戦を演じ、瞬く間に五機を確實に撃墜した。また別働隊は、同三時再び虚を衝いて奇襲を敢行、舞上る餘裕も奪はれた地上機を求めて、猛烈な防禦砲火を纏ひ、敵大型機三機を炎上せしめ、わが荒鷲は一機の犠牲もなく、戦闘技術の優秀を遺憾なく發揮して歸途についた。

をトッける我が陸軍の精銳は二十三日午前午後の二回にわたり大舉ラングーン飛行場を空襲、激烈な空中戦闘の彼敵戦闘機三十五機を撃墜、赫々たる大戦果をあげた。この日午前の第一次空中戦闘において敵の戦闘機八機をまづ血祭りにあげたが、午後二時第二次空襲に我が大編隊はラングーン上空附近に待ち伏せてゐた敵の戦闘機群カーチスP四〇型、バツファロースピットファイヤーなどの三十數機と俄然壯烈な空中戦を交へ、激闘〇〇分のちその二十七機（うち不確實十機）を撃墜、峻烈な對空射撃を侵して同飛行同に互彈の雨を浴びせ、諸施設を片つぱしから爆破炎上せしめた。

政府は二十四日持廻り、閣議により今議會に提出する臨時軍事費豫算第八次追加百八十億圓ならびに、右に伴ふ昭和十七年度一般會計追加豫算第二號及び、同各特別會計追加豫算第二號を左の如く決定、直に議會提出の手續きをとつた。右



の追加豫算を加へて臨時軍事費豫算の累計額は四百七十億九百七十六萬七千圓となる。

### 一月二十五日

アナンダ・マヒドール泰國王の名において次のごとく聲明す。

「英米兩國は泰國國境内にその軍隊を越境せしめ、あるひは泰國の都市へ爆撃するなど、種々なる方法をもつて泰國に對し侵略的行爲を行ひ來つた。かくのごとき行爲は國際法に違反すると同時に、また人道に背馳するものである。それ故に泰國は泰國憲法第五十四條によつて英米兩國と一月二十五日正午より戦闘状態に入る事となつた。泰國人民よ、最後の勝利を戦ひ取るために全力を擧げて政府と協力せよ。誓つて平時のごとく冷靜に各々の職分に邁進せよ。泰國在住の外國人および非敵國籍人よ、泰國政府によつて與へられた友邦人たるの名に値するが如く行動せられよ。」

大本營發表 帝國陸軍部隊の一月十五日より同二十三日までにおける各方面の戦況左の如し。(抜萃)

一、馬來方面 (一)、西海岸方面を進撃する我が部隊は十五日正午要衝マニラを占領し、この間我が有力なる海上機動部隊は克く執拗なる敵飛行機の攻撃と陸所に出没せる敵潜水艦の脅威とを排撃しつゝ、十六日午前十一時ごろバトバハ附近に上陸し、アールム河左岸の敵背後を急襲す。二十日バクリ及びバリスロン附近ムアール河左岸一帯の地區を占領し、更に戦果をジョホール北岸南方に擴大中にして、その先鋒は二十二日ヨンペン西方地區に進出せり。

ムアール河畔の戦闘において敵の獨立第四十五旅團を殲滅せしこと確實にして二十三日までに判明せる戦果左の如し。

鹵獲品 十センチ級加農砲八門、戦車(輕裝甲車を含む)四十輛、自動車數百輛、俘虜少くとも七百。

(二)、中央方面 マレー半島中央方面を進撃する我が部隊は、十三日スレンバンを十四日タンビンを占領し、爾後部隊はラビス西方地區に進出し引續き南進中なり。十三日スレンバンにて押収せる鐵道資材左の如し。

◇機關車十五輛◇油槽車十一輛◇客貨車五百二十八輛◇その他資材多數。

(三)、東海岸方面 クアンタン方面より南下中の我が軍は二十日エンドーを占領し、引續き敵を追撃して二十二日午前メルシン北方地區に達し、爾後一齋に同地附近の敵を攻撃中なり。

(四)、陸軍航空部隊は一月十五日來連日に互り、戦爆連合の大編隊をもつてシガポール大空襲を續行し、市街主要軍事施設を徹底的に潰滅せしめると共に殘存敵空軍に致命的打撃を與へつゝあり。

なほ我が有力なる部隊は地上部隊の果敢なる進撃作戰に緊密に協力して着々戦果を擧げつゝあり、この間における戦果

左の如し。

◇撃墜五十五機◇撃破五十三機◇計百八機。

二、ビルマ方面 (一)、泰、ビルマ國境を突破せる我軍は十九日未明長驅テナセリム地方の要衝タヴオイを衝きこれを完全に占領し、爾後の作戰を準備中なり。タヴオイ附近の攻略戦々果左の如し。

鹵獲品 山砲二門、機關銃十一挺、重機三百十八挺、各種銃彈約十萬發、自動車十輛、その他鹵獲品多數◇俘虜百五十一、遺棄死體五百七十

(二)、陸軍航空部隊は泰、ビルマ國境山岳地帯の地上突破作戰に協力すると共に大學ラングーンを空襲し、多大の戦果を収めたり。戦果左の如し。

◇撃墜三十七機◇撃破十三機◇計五十七機。

三、比島方面 (一)、パタアン半島及びコレヒドール島要塞に餘隙を保ちつゝある敵を攻撃中なり。オロンガガ及びグ

ランデ島攻略戦々果にして十五日夕刻までに判明せるもの左の如し。

◇四十センチ加農砲二門◇二十五センチ加農砲四門◇二十センチ加農砲、十五センチ榴砲各一門◇十五センチ加農砲三門◇高射砲二門◇野砲七門◇その他彈藥等多數。

(二)、陸軍航空部隊はパタアン半島に據る敵を攻撃の地上部隊の戰鬪に協力し敵陣地を爆撃すると共に、コレヒドール島要塞附近の艦船を攻撃多大の損害を與へ敵を制壓しつゝあり、この間における戦果左の如し。

◇撃墜八機。

四、蘭印方面 (一)、蘭領ボルネオタラカン島に上陸せる部隊は未だ降伏せざる殘敵を掃蕩中なりしが、十四日ジウサタ及びゴシチャゴールの油田の接收をもつて全島の裁定を終れり。其の戦果左の如し。

◇俘虜八七四◇火砲九門◇重機關銃六

九挺◇小銃五五六挺◇裝甲自動車一五輛◇自動車等六七輛◇彈藥其他軍需品多數タラカン島裁定作戰における我が軍の損害左の如し。

戦死八戰傷三一(軍屬一を含む)

(二)、陸軍航空部隊は屢々スマトラ島敵空軍基地を空襲し、蘭印空軍に對し多大の損害を與へた。

五、英領ボルネオ方面 クチン攻略部隊は英蘭國境に蠢動するオランダ軍を攻撃、これを撃退しつゝ前進し、十六日蘭領ボルネオ西部の要衝ピサンを奪取し、引續き進撃中なり。

六、ビスマルク群島方面 一月二十三日未明ニューブリテン島ラバウル附近に上陸せる陸軍部隊は、頑強なる敵の抵抗を排除して午後一時三十分ウナカナウ飛行場(ラバウル西南方)を完全に占領せり。ウナカナウ島の戦果左の如し。

鹵獲品◇飛行機三機◇火砲七門◇その他多數。

七、支那方面 各方面に互る敵を撃滅して重慶軍の蠢動を完全に破壊せり、大東亞戰爭勃發以來一月中旬までに判明せる戦果次の如し。

鹵獲品◇迫撃砲三〇門◇重機關銃五五挺◇輕機關銃七七挺◇小銃七、二二四挺 俘虜三八一九、遺棄死體三五、九二八。

八、占領地の状況 軍は占領地に對し軍政を施行し住民克く皇軍の眞意を了解し積極的に治安回復に協力しつゝあり、但し香港は一月十九日香港占領地總督部を設置し、治安は急速に回復したマニラ陸我が軍の軍政下にヴァルガスをして市政を實施せしめ、市内の秩序は遂次向上しつゝあり。

### 二月二十六日

弓道具最高販賣價格指定(商工省告示第八〇號)更生糸織物製労働作業服販賣價格指定(商工省告示第八一號)學童服、警防團服及青年學校訓練服販賣價格指定 昭和十六年五月告示第四五五號中改正

(商工省告示第八二號)耐酸瓶販賣價格指定 昭和十六年一月告示第六九號中改正 (商工省告示第八三號)公布。

大本營發表 帝國陸海軍部隊は緊密なる協同のもとに一月二十四日未明敵の抵抗を排除してボルネオ島バリツクバパンの上陸に成功し、戦果擴大中。

大本營發表 一、帝國海軍特別陸戰隊は一月二十四日未明、セレベス島ケンダリーの敵前上陸に成功し、目下所在の敵を掃蕩中なり。

二、二十三日カビエングに上陸せる帝國海軍特別陸戰隊は、二十四日同地を完全に占領せり。

〇〇基地を〇〇日勇躍出發した海軍部隊は遂に赤道を突破して、二十三日未明陸海協同の主力部隊ラバウル攻略に呼應し、特別陸戰隊の輸送船團のカビエング揚陸に成功これ無血占領し、南半球東部の濠領に最初の軍艦旗を掲げた。この日未明南十字星は斜にかかつて海上は無

風絶好の上陸日和に恵まれたが、敵軍は皇軍來るの報に驚いて税關棧橋に放火飛行場を爆破して逃走、我が陸戰隊が上陸に成功した時には敵影なく、皇軍の前に無力ぶりを暴露した。斯て米英濠蘭を結ぶ南方進攻動脈線は完全に遮斷された。

蘭印司令部二十五日の發表によれば、日本軍のバリツクバパン敵前上陸以來バタヴィヤ間の通信は全く杜絶するに至つたと、同地駐屯軍よりバタヴィヤに達した最後の報告では「日本軍は上陸を敢行せんとしつゝあり、當地駐屯蘭印軍は日本軍の侵入に抵抗を試みるであらう」と述べてゐたが、それ以後バタヴィヤと兩地間の連絡は全く絶たれてゐる。なほバタヴィヤよりの報道によれば日本軍航空部隊は昨週中蘭印東部全般にわたつて猛爆を敢行したが、就中モルツカ諸島中のアンボイナ、蘭領ニューギニア西端のソロンと同島西北岸が日本航空部隊の痛烈な

る空襲を受けたと。

ジョホール州中部の敵陣地は自然の地形を恃み、シンガポールの前衛陣地として頑強に抵抗しつゝあつたが、我が軍の果敢なる攻撃はつひに要衝クルアン、アエルヒタムを二十六日朝占領した。すなはちシンガポール街道進撃〇〇部隊はクルアンの敵に對し二十五日午後十一時、アエルヒタムの敵に對し二十一日午前三時各果敢なる夜襲をもつて、砲十二門を基幹とし頑強に抵抗せる敵を二十六日拂曉完全に掃蕩せり。さらに本道および鐵道線路に沿ふ道路を〇〇に向ひ敵を追撃中である。

比島行政首腦部を定め、比島大日本軍最高指揮官は左の如く發表した。

軍當局談 昭和十七年一月二十六日午後三時行政政府各部長官、その他を任命せり。各部長官およびその他の氏名次の如し。

行政長官ホルベ・ビー・ヴァルガス△内

務部長官ベコケノ・エス・シキノ△財務部長官アントニオ・デ・ラス・アラス△司法部長官ホセ・ビラウレル△農商務長官ラファエル・アル・シルナン△教育厚生部長官クラロ・ユム・レクト△土木交通部長官キンテイン・パレデス△大審院長ボツゼ・ネーロ△行政政府主計局長テオフィロ・シソン△行政政府書記官長セラフィン・マラフツト

一月二十七日

獸醫師職業能力申告令中改正(勅令第三八號) 獸醫師等徵用令(勅令第三八號) 公布。

大本營發表 帝國陸軍航空部隊は一月二十六日マレー、ビルマ方面において敵機五十機(うち不確實十機)を撃墜し、近時増強を見つゝある敵空軍に對し、鐵槌的打撃を與へたり、その状況左のごとし。

一、午後四時三十分頃、マレー東岸エコダウ附近上空において、わが船團の攻

撃を企圖せる戰爆連合の敵大編隊(ロツクヒード、ハドソン爆撃機九機、雷撃機十數機、コンソリデーテッド哨戒爆撃機若干、ホーカー・ハリケーン戰闘機若干、バツファロー戰闘機四、五機)を反撃し、その雷撃機十二機(うち不確實一)コンソリデーテッド爆撃機一機(不確實)ロツクヒード、ハドソン爆撃機三機(うち不確實一)ホーカー・ハリケーン戰闘機三機(うち不確實一)バツファロー戰闘機五機計、二十四機(うち不確實四)を撃墜せり。

二、午後七時ごろ、さらにエンダウ附近上空において爆撃機と判斷せらるゝもの十五、六機、ホーカー・ハリケーン一機の敵編隊群を急襲してその十五機(爆撃機らしきもの十四機、ハリケーン一機)を確實に撃墜せり。

三、正午ごろ、第三十三次シンガポール大空襲を敢行し、テンガー飛行場を猛撃、大炎災を生ぜしむると共に哨戒中の

敵機二機のうちホーカー・ハリケーン一機撃墜せり。

四、午前十一時四十分ごろ、ラングーン上空において挑戦し來れるスピットファイヤー十二、三機と激烈なる空中戦を交へ、その十機（不確實六機）を撃墜せり。

五、この日におけるわが軍の損害、歸還せざるもの一機、友軍戦線内に不時着せるもの一機なり。

大本營發表表 マレー西海岸方面帝國陸軍部隊が一月二十日、バクリ及びパリツトスロン附近の戦闘において收めたる総合戦果左の如く、我と交戦せし敵獨立第四十五旅團の全滅せしこと、略々確實なり。

一、交戦せる敵兵力累計八千二百、遺棄死體千八百十、俘虜千百、なほ俘虜の言によれば、敵の旅團長は二十日バクリにおいて戦死せり。

二、鹵獲品 野砲九、十サンチ加農砲

一、迫撃砲二十一、速射砲九、自動砲九重機關銃四十二、輕機關銃百九、小銃一千三百三十、輕裝甲車二十九、自動貨車四百、乗用車十四、地雷二十四箱、火砲壘百、彈藥その他多數。

我が損害は戦死百三十九（將校九）戦傷百六十三（將校十一）なり。

大本營發表表 一、帝國海軍航空部隊は一月二十二日以降數次にわたりバリツクパン、サマリンド、バンジュールマン、アンボン、ナムレア（蘭印方面）ラバウル（ニューギニア方面）などの大爆撃を敢行し、敵機四十五機（うち飛行艇二）を撃墜破し、各地砲臺、高角砲陣地、兵舎など諸軍事施設に大損害を與へたり。本攻撃において我方二機を失へり。

二、帝國軍艦搭載機（水上偵察機）一機は十七日比島サランガニー上空において敵數機と壯烈なる空中戦を交へ、敵又發爆撃機一機を撃墜せり。

三、二十四日バリツクパン攻略にお

いて我輸送船團護衛艦艇は敵驅逐艦、潜水艦及び航空兵力と激烈なる交戦の結果敵潜水艦一隻を撃沈せるも我方また輸送船四隻を失へり。

帝國潜水艦はスマトラ、ジャバ方面に活躍し二十二日までに敵船十三隻計八萬八千トン（うち三隻）を撃沈せり、撃沈敵船左の通り。

一萬五千トン級一隻（大型武裝商船）八千トン級三隻（油槽船、商船、貨物船）各一）五千トン級二隻（輸送船、貨物船）各一）四千トン級二隻（商船、貨物船、各一）その他五隻（三萬一千トン）

英商船二隻が最近二日間のうちにスマトラ沖で雷沈された。右は日本潜水艦がはやくもスマトラ沖に行動を起したるものとして、各方面に重大な衝撃を與へてゐる。

二十一日夜のメルボルン報道によれば日本潜水艦と思はれる潜水艦はスマトラ西方〇〇哩のスマトラ沖において聯合國

側汽船一隻に水雷攻撃を加へ、命中せしめた。

マレー東海岸の要衝〇〇に上陸中のわが陸上部隊に對し、二十六日午後二時三十五分より二回にわたり敵輕爆ロッキード・ヘッドソン複葉爆撃機十數機、ハリケーン・パツファアロー十數機、ハリケーン・パツファアロー戰闘機多數及び若干のコンソリデーテッド哨戒爆撃艇から成る敵の大編隊が來襲、わが船團に盲爆を加へたが、折柄わが陸上部隊を空中より援護してゐた我が陸驚精銳は直ちにこれと交戦、メルシシ上空において壯烈なる激戦を演じたるのち敵爆撃機十二機（不確實一機）ロッキード・ヘッドソン三機（内不確實一機）パツファアロー五機、ハリケーン三機（内不確實一機）コンソリデーテッド一機（不確實）計二十四機撃墜の大戦果をあげた。しかるに英空軍はこれにも懲りず、英軍の誇るスピットファイヤー一機に護られたウオドフェイスユらしき

爆撃機十五乃至十八機は薄暮を利用して午後七時ごろ再びメルシシ上空に來襲、哨戒中のわが戰闘機隊と再び激戦を交へたが、わが陸驚は忽ち爆撃機十四機、スピットファイヤー一機、計十五機を撃墜、前後二回の空中戦で計三十九機撃墜の大戦果を挙げ、我が機には敵機の被弾機あるのみ、全く一方的の大捷利であつた。なほこの日テンガー飛行場を爆撃した〇〇部隊掩護中の〇〇部隊は挑戦せるハリケーン機と交戦、内一機を確實に撃墜してこの日總計四十機の赫々たる戦果をあげた。

上海に達した確實なる情報によれば、米國政府は二十五日眞珠軍港における米國の戦死者に關し左の通り發表した。

海軍側四千五百、陸軍側一千

二十六日伊軍司令部發表によれば、獨伊聯合軍は英軍を北アアゲダビアより撃退したる後もアゲダビア東方に進撃し、英機甲部隊に多大の損害を與へ、一日に

して大砲三十八門、戦車九十七臺、飛行機十三機、その他自動車多數を捕獲し、獨伊側の損害は輕少であつた。かくて一月二十一日より二十六日までの獨伊軍の戦果は次のごとくである。

大砲百十八門、戦車二百三十九臺、飛行機二十八機、その他捕虜數千名、自動車その他の兵器多數。

ベルリン特電 二十七日發獨軍司令部 二十七日發表。

米國とカナダの大西洋岸に活躍する獨潜水艦は敵商船十二隻（うち六隻は大型油槽船）十萬三千トンを爆沈した。なほ大西洋西岸に行動開始以來、一月二十四日まで合に計三十隻二十二萬八千トンの敵船舶を撃沈した。

ノルウエー油槽船ヴァパンガー號（五、〇〇〇トン）は二十六日朝米東海岸で潜水艦により撃沈された。

二十七日發起人會を擧げた大日本婦人會では、同發起人會で會長以下の役員も

左の如く決定、事務所は當分の間芝の女子會館内に置く、役員の名は次の通り。

△會長 山内禎子

△副會長 穂積ナカ、武藤能婦子、三條

西信子、水野萬壽子

△顧問 各省大臣、企畫院總裁および林

銑十郎、本庄繁、吉岡彌生、井上秀子

ほか三十六氏

△理事長 川西實三

△常務理事 伊藤知剛、洪泰夫、倉橋定

△理事 内務省振興課長岡本茂、陸軍省

菅井大佐、海軍省平出大佐、文部省成人

教育課長里見富次、拓務省警務課長

荒木和成、軍事保護院扶助課長加藤祐

三郎、市來鐵郎、鳩山薫、花房靜子、

林富貴子、波多野嘉洋子、林喜代、羽

仁説子、星野操、鮎貝ひで、堀口きみ

子、帆足みゆき、力石喜乃子、太田様

子、大瀬菊子、大野朔子、大橋のぶ、

恩田和子、鷲尾幾子、河井やゑ、河崎

ナツ、竹内茂代、竹田菊子、武田沖子、

瀧浦さだ子、田中カマ子、成田順子、

半井久子、永野芳辰、村岡花子、野村

ミチ、山高茂、松平信子、松平俊子、

前田若尾、後藤治子、吉田邦子、國分

操、佐上博子、岸壽美、下田砲子、廣

橋規子（以上四十七名）參與監事等決

定。

拿捕、接收の敵國船で砂糖續々輸送し

紀元節頃には増配の見込

一月二十八日

獸師等徵用令施行規則（農林省令第八號）

獸醫師等徵用令第十九條第五項ノ規定ニ

依リ徵用セラルヘキ者ノ出頭旅費規則

（農林省令第九號）獸醫師等徵用令第十九

條ノ出頭ノ規定ニ依リ徵用セラルヘキ者

ノ前渡旅費支辨方ニ關スル件（農林省令

第一〇號）獸醫師等徵用令ニ依リ地方公

共團體、指定團體又ハ指定施設ニ徵用セ

ラレタル者ノ旅費及地方公共團體、若ハ

指定團體、又ハ指定施設ノ事業主ノ國庫

ニ納入スヘキ旅費ニ關スル件（農林省令

第一一號）獸醫師等徵用方ニ關スル事務

ヲ執行スル爲要スル費用支辨方ニ關スル

件（農林省令第十二號）和紙販賣價格指

定昭和十六年二月告示第一五三號中改正

（商工省告示第九〇號）襪下屑ノ購入及販

賣價格指定昭和十五年九月告示第五二七

號中改正（商工省告示第九一號）特免金

屬製玩具等最高販賣價格指定（商工省告

示第九二號）乘用三輪車及乘用リヤカー

最高販賣價格指定（商工省告示第九三號）

公布。

大本營發表 帝國陸軍部隊は一月二十

五日午前一時蘭領ボルネオ島バリツクバ

パンを完全占領し、引き續き殘敵を掃蕩

中にして、敵は逐次我軍に投降しつゝあ

り。

英空軍の猛爆にもかゝはらず、日本軍

は二十七日來マレー東海岸のエンダウ附

近に續々上陸を敢行し、シンガポール攻

撃態勢を整へてゐる。

要衝クルアンを奪取後マレー縦貫鐵道

に沿ひ南下猛進撃を續行中の中央進撃〇部隊は、クルアン東南二十キロレンガム近郊の抵抗線を一撃、忽ちこれを潰滅して二十七日午後四時十五分レンガムを完全に占領、さらにシンガポール街道を疾風の追撃戦を續行中、二十八日朝現在わが先鋒部隊の位置はシンガポールを距る僅々〇〇キロである。

二十六日半島東海岸の要衝バランガを占領したわが軍は、引續き進撃を續け、早くもバランガ南方附近の地點に進出、敗走する敵を半島南部に壓迫し、刻々包圍をせばめつゝあり。

比島派遣軍では二十八日マニラ放送局を通じてコレヒドール要塞に據つて潰滅の運命をたどる米比軍に對する投降勸告ならびに比島一般市民に對する臨時政府協力勸告放送を英語、スペイン語で約二十分間數回にわたつて行ひ、米國が比島支配四十年の罪惡史を述べ、罪虐非道のコレヒドール虐殺をはじめ、幾多の人民

を殺慮したサマル島の戮慘行爲を指摘した。

戰時經濟推進の中核をなすべき重要産業部門別統制會については、昨年十月三十日閣令をもつて十二業種につき第一次指定を行つて以來、續々統制會の設立が進められ、二十八日の造船統制會創立を最後として、こゝに鐵鋼、石炭、生産機械、精密機械、電氣機械、車輛、自動車、セメント、鑛山、金屬、貿易、造船の第一次指定十二業種全部の統制會設立を完了した。

イタリア軍司令部は、獨伊空軍が二十六日地中海において英艦隊を襲撃し、多大の戦果を収めたむね左のごとく發表した。

一、伊空軍雷撃隊は二十六日、ベンガジ東北沖において英艦隊を襲撃、猛烈な防空砲火を冒して反復雷撃を加へ、一巡洋艦に命中彈三箇を與へてこれを撃沈し、他の一隻に重大損傷を與へた。

獨空軍部隊は二十六日トブルク沖において他の英艦隊を發見、これに爆撃を加へ、一巡洋艦に大型爆彈を命中せしめた。

一月二十九日

工業用智利硝石販賣價格指定昭和十五年十一月告示第七〇四號中改正(商工省告示第九四號) 卷障子紙等販賣價格指定昭和十五年十二月告示第八〇八號中改正(商工省告示第九五號) 新織維最高販賣價格指定昭和十七年一月告示第二二號中改正(商工省告示第九六號) 電動工具及同部分品(輸入品ヲ除ク) 電磁チャック(輸入品ヲ除ク) 並ニ電磁チャック用デマゲネタイジ(輸入品ヲ除ク) 最高販賣價格指定(商工省告示第九七號) 特殊漆器最高販賣價格指定(商工省告示第九八號) 洋紙販賣價格指定昭和十五年十月告示第五九號中改正(商工省告示第九九號) 故又ハ屑ノ硝化纖維素フェルム最高販賣價格指定(商工省告示第一〇〇號) 半田錫販賣價格指定昭和十五年八月告示第四三



七號中改正(商工省告示第二一號)公布。

鳥取縣警察部長 宇佐美 毅

國土局總務課長を命ず

埼玉縣學務課長 木戸喜佐登

任岐阜縣書記官(經濟部長)

岐阜縣經濟部長 岩澤 博

任鳥取縣書記官(警察部長)

内務省國土局總務課長 高橋 庸彌

任企畫院書記官

大本營發表 二十七日帝國驅逐艦二隻

は我輸送船攻撃を企圖し、シンガポールを攻撃せる英驅逐艦サネット及びパンバイヤ一二隻をマレー東岸エンダウ沖に發見、直ちに攻撃、こゝに二對二の同等勢力の驅逐艦戦を展開し、敵サネットを撃沈、その乗員若干名を捕虜とし、パンバイヤ一を遁走せしめたり。我に一彈一片の被害なし。

大本營發表 マレー西海岸方面の帝國

陸軍部隊は、一月二十五日センガラス

(パトバ)南方約二十キロ(附近)において

約四千の敵を包圍攻撃し、これに潰滅的打撃を與へたり。本戰團においてわが軍は戰車三十九輛、中小口徑火炮百六十四門、自動車二百四十三輛、その他多數の兵器資材を鹵獲せり。

大本營發表 一、帝國海軍航空部隊は二十六日二十七日マカツサル海、セラム海、モルツカ海、フロレス海、パンダ海の廣海域を制壓し、ボルネオ島、セレベス島、セラム島、ブル島等の敵重要航空基地に對し反復攻撃を敢行し、敵機四十五機を擊墜破(内不確實四)せり。本攻撃において我方未だ還らざるもの四機なり。

二、ケンダリーに上陸せる帝國海軍特別陸戰隊は、附近一帯の敵を掃蕩し、二十六日同地を完全に領せり。

わが陸軍の諸精銳部隊は二十六、七兩日のラングーン飛行場の夜間爆撃に引續き、二十八日午後折柄の豪雨で油斷する同飛行場の晝間強襲に成功、最近増強し

つゝある敵の戰闘機二十數機と大膽なる雨中の空中戦を演じ、擊墜確實九機、不確實五機の戦果をあげた。わが荒鷲の損害は悲壯なる自爆一機である。

ビルマ方面の皇軍前線大部隊は、カウレイからモールメンに本格的な進撃を開始し、別働隊はカムレイから別道をとりに峻険を踏破して同じくヒンロンへ進撃、タヴオイ方面海岸を北上する友軍も着々戦果擴大中である。

ロイター通信ロンドン電によれば、英商船レデーホ・ウキンス號(七、九八八トン)はカナダ東海岸沖で潜水艦の魚雷攻撃を受け沈没、船客中二百五十名は溺死した。

### 一月三十日

技術院官制(勅令第四一號) 總動員業務指定令改正(勅令第五四號) 地方公共團體が讓受クル軌道財團及自動車交通事業團並ニ此等ヲ目的トスル抵當權ニ關スル件(勅令第六〇號) 飭最高販賣價格指定

昭和十六年九月告示第七二三號中改正  
 (農林省告示第五〇號)農機具最高販賣價  
 格指定(農林省告示第五一號)普通歴延  
 鋼材及其ノ半製品最高販賣價格指定昭和  
 十六年七月告示第五八一號中改正(商工  
 省告示第一〇二號)帆布加工品及其ノ加  
 工綿布販賣價格指定昭和十五年七月告示  
 第三三號中改正(商工省告示第一〇三號)  
 公布。

シンガポール街道に沿ひ進撃中の〇〇  
 部隊は、二十九日夕よりセデナツク、ア  
 エルベンバン附近の敵に對し攻撃を開始  
 し、三十日朝における情況の概要左の如  
 し。

一、本街道方面の〇〇部隊は敵第一線  
 陣地を奪取し、引續き迫撃砲四、砲八門  
 を有する敵約五百の第二線陣地を攻撃中  
 である。

二、鐵道線路方面の〇〇部隊はその一  
 部宮本部隊をもつて鐵道線路より當面の  
 敵を攻撃、主力はセゼナツク北方地區に

進出、クライに向ひ突進中である。シン  
 ガポール街道進撃部隊に呼應して西海岸  
 道追撃中の〇〇部隊はジョホール・バハ  
 ルに向ひ猛進中にして、二十九日午前  
 十一時コンボンアビアビ(ボンチャンケ  
 チル西北八キロ)に達し、當面の敵を攻  
 撃中にして、ボンチャンケチル方面には  
 砲を有する兵力未詳の敵あり。なほ西海  
 岸ベヌットの戰鬪において敵第十五旅團  
 長を捕虜とした。

ベヌット奪取後マレー西海岸道を霧進  
 中の〇〇部隊は、二十九日午前十一時西  
 街道とジョホール・バハルへ通ずる道  
 路の分岐點ボンチアン・ケチル西北八キ  
 ロのアビアビに突入、シンガポール等へ  
 の直線距離〇〇キロに迫つた。また西海  
 岸方面の敵はボンチアン・ケチルに砲を  
 擁する退却集團が蠢めくのみで、他は悉  
 く捕捉殲滅され、既にマラツカ海峡方面  
 には、たゞ一兵の敵影も見ざるに至つ  
 た。

シンガポール街道を猛進中のわが精銳  
 各部隊は二十九日夕刻アエルベンバン北  
 側の第一抵抗線を奪取、三十日早朝より  
 引續き迫撃砲三門、野砲八門を有する約  
 五百の敵が頑強に抵抗する第二線陣地に  
 對し猛攻中、一方縱貫鐵道に沿ひ猛進中  
 の各部隊はその一部〇〇部隊を鐵路上に  
 あつて抵抗中の敵に當らしめ、主力は夕  
 刻セデナを奪取、敵に残された最後の據  
 點クライに對し總攻撃の火蓋を切つた。

シンガポール總攻撃をまへにマレー半  
 島最後の戦はいよゝ大詰となり、わ  
 が西海岸進撃部隊は三十日ボンチアン・  
 ケチル北方に、中央鐵道沿線南下部隊も  
 同日セデナツク、アエルベンバンの線に  
 進出、あと〇〇キロの決戦ゴールを目指  
 し猛進撃を續けてゐる。殊に西岸部隊の  
 前面にある敵兵はケダー、ペラー、バト  
 バハの三激戦で散々に叩かれた印度第十  
 一師團の敗殘兵で、印度兵の大部分は逃  
 亡あるひは戦死をとげ、殘つてゐるのは

英濠部隊だけであり、他の二方面でも印  
度、マレー人の犠牲において現在まで命  
を長らへてきた英濠兵が今は逃げる術も  
なく、わが鐵火に曝されてゐる。一方東  
海岸進撃部隊は隊中央地區よりのわが部隊  
とつひにジエマラン外郭地帯で感激の握  
手なり、こゝにわが總攻撃態勢は完成さ  
れた。

香港の陥落により援蔣ルートの一たる  
香港ルートは完全な遮断が成つたので、  
南支軍は淡水に在つた部隊を二十五日撤  
去した。三十日午後五時南支軍報道部は  
これに關し左の如く發表した。

南支軍は香港を根據とする援蔣ルー  
ト、所謂香港ルート遮断の目的をもつて  
淡水を占據中なりしが、香港既に陥落し  
相次ぐ米英軍の敗退の結果、援蔣物資の  
流入も絶對不可能となりたるをもつて、  
去る二十五日一彈一發の戰火を交へること  
なく、駐屯部隊を撤去せり。

イタリヤ各紙は今大戦開始以來、本

年一月二十七日までに日獨伊樞軸によつ  
て撃沈された英海軍艦艇數を英海軍當局  
の發表に従つて左のごとく發表した。

戰艦六、航空母艦四、巡洋艦十四、驅  
逐艦六一、潜水艦五一、水雷艇三、補助  
巡洋艦十二、護衛艦一、砲艦六、スルー  
プ艦十一、水雷敷設艦、哨戒艇二、コル  
ヴェツ艦一。

昨年五月末發表された科學技術新體制  
確立要綱の中核をなす技術院の設立は、  
昨秋企畫院を中心に準備を進めてゐた  
が、今回諸般の手續きを完了、三十日午  
後四時政府は技術院官制、同事務分掌規  
程とともに總理大臣談話を發表、こゝに  
わが科學技術界に一期を畫する技術院は  
三十一日官制の公布施行により舊陸軍築  
城本部跡に開設されることとなつた。

#### 『東條首相談』

大東亞戰窮極の目的である東亞共榮圈  
の確立を完遂するためには、まづ第一  
に國防力の急速なる擴充が必要であ

る。これがためには國內のあらゆる科  
學者、技術者を動員し、科學技術の高  
度にしてかつ綜合的なる進展を期し、  
以て綜合國力の培養を圖ることが國家  
として緊急の要務であると信ずる。今  
回創設された技術院の使命は要するに  
わが國科學技術の全般に互つて、その  
刷新向上を圖ると共に、各廳の科學技  
術行政の連絡調整の衝に當り、特に刻  
下喫緊の科學技術に付いては凡ゆる手  
段を講じて之が畫期的躍進を圖る措置  
をなすにある。しかし畫期的躍進を圖  
るべき科學技術の範圍は極めて廣汎に  
わたるので、現下内外の情勢より見、  
將又科學技術の綜合性より見て、まづ  
第一着手として航空部門に焦點を指向  
して着手することとした次第である。

#### 一月三十一日

健康保險法施行規則中改正(厚生省令第  
五號)職員健康保險法施行規則中改正(厚  
生省令第六號)味噌最高販賣價格指定(農

林省告示第五二號)醬油販賣價格指定(農林省告示第五三號)三極、楮及雁皮販賣價格指定昭和十六年三月告示第一七〇號中改正(農林省告示第五四號)ブリキ屑(輸入品ヲ除ク)販賣價格指定昭和十五年七月告示第三六三號中改正(商工省第一〇七號)故又屑鐵販賣價格指定昭和十六年五月告示第三八五號中改正(商工省告示第一〇八號)光輝墨緣最高價格指定昭和十六年七月告示第六五七號中改正(商工省告示第一〇九號)硫、酸、鐵最高販賣價格指定(商工省告示第一一〇號)綿狀層織維購入及販賣價格指定昭和十六年五月告示第三八一號中改正(商工省告示第一一二號)アンモニア系製品最高價格指定(商工省告示第一一三號)公布。

任技術院總裁 子爵 井上匡四郎  
 任技術院副總裁 東京帝國大學教授 和田 小六  
 海軍機關大佐 佐波 次郎  
 任技術院參技官

大本營發表 一、帝國海軍航空部隊は二十七日熾烈なる地上砲火を冒し、シンガポールを攻撃し、所在機五機を地上擊破、數機に損傷を與へたる外、飛行場軍事施設を破壊せり。尙同港在泊中の敵船一隻を擊破せり。

二、帝國海軍航空部隊は二十七日二十八日、スマトラ島バダン港敵輸送船團を爆撃せり、戰果左の通り。

一萬トン級輸送船一隻直撃命中大火災、六千トン級輸送船三隻炎上(内一隻小破)四千トン級輸送船二隻爆沈(破爆沈一隻、大破一隻)二千トン級輸送船一隻大破、その他小型船四隻爆沈。

大本營發表 一、有力なる帝國陸軍部隊は、海上機動により一月二十七日拂曉西部蘭領ボルネオ北端バマンカット附近の上陸に成功したる後、長驅要衝サンパスを衝き、同日午後三時完全にこれを占領せり。二、英領ボルネオクチン方面よりシルアスを經て南下中なりし帝國陸軍

部隊は、右部隊に策應しサンガウ附近の敵を擊破して、同日午前十時レド飛行場(サンガウ西南二十二キロ)を占領せり。

二十年來の豪雨のため滿を持して待機中のボルネオ作戰軍は、荒天を冒し二十七日海上機動の妙を盡し新作戦を展開、西部ボルネオの戰況は俄然活況を呈するに至つた。すなはち蘭領西海岸(バマンカット)に二十七日午前七時奇襲上陸した我が部隊は、引續き一氣に四十五キロ前進、要衝サンパスを陥れて入城すれば、これに呼應して同日陸上からはクチン方面より活動を展開し、西南方の英蘭國境の山嶽地帯の難路を征服、クチンを距る六十五キロのシルアスに出て抵抗を排除しつゝ前進、ベレカヘン附近のレド飛行場を同日午前十時に占領、早くも同方面の重要敵空軍基地を確保し、西部ボルネオの要衝は行動開始二日にして着々我が手に歸しつゝある。既に英領北ボルネオの全要衝は皇軍の占領下にあり、蘭領南

ボルネオにおける新作戦の展開は資源確保のみならず、蘭領東印度諸島に對する我が作戦に重大影響をおよぼすものである。

大本營發表 帝國海軍航空部隊は、前日に引續き二十九日シンガポールを攻撃し、セレーター飛行場格納庫群並に滑走路に全彈を命中せしめ、七箇所を炎上、附近施設を概ね壊滅せしめたり。なほわれに挑戦し來れる殘存敵機二機を撃墜せり。

我が爆撃編隊がセレーター飛行場上空に突入の際、折柄上空を哨戒中の敵スピットファイヤー七機及びベツファロー一機が挑みかからんとして來たが、これを逃すまじとわが戦闘機隊は、進撃してスピットファイヤーおよびベツファロー各一機を見事撃墜し、全機悠々〇〇基地に凱歌をあげた。また同日他の索敵爆撃隊はシンガポール南方ベンカ島附近のベンカ海峡に航行中の軍艦および商船から成る

敵輸送船團を發見、直撃彈を浴せて、うち一萬トン級商船一隻を大破せしめた。

大別山南麓河口(鎮花園東方三十キロ)

附近に侵入せる廣西軍第八十九師約五千にたいする我が精銳部隊の包圍殲滅戦は、二十九日午後より急展開を示し、敵は山中各所で撃滅されつつあるが、三十日夕刻までの彼我の綜合戦果は次の通り。遺棄死體一、一五八、捕虜一二五、鹵獲品重機、輕機など多數。

ワシントン來電に依れば、米軍法會議は前太平洋艦隊司令官キンメルならびに前ハワイ軍司令官シヨートをハワイ敗戦の責任者と斷じ、兩人を司令官の地位より罷免し、階級を引下げる旨宣告した。

二月一日

大本營發表 西部蘭領ボルネオ方面に作戦中の帝國陸軍部隊は一月二十九日要衝ボンチアナツクを完全に占領せり。

(註) ボンチアナツクは西部ボルネオ州の首都で平時は相當數の蘭印軍が駐屯

してゐた。水上飛行基地で、サイゴンおよびジャバに對する海底電信基地である。

大本營發表 マレー半島を進撃中なる帝國陸軍部隊は、昨一月三十一日夕その先鋒を以てシンガポール島對岸に進出せり。上陸以來五十五日、踏破行程約千キロ、舟艇機動約六百五十キロ、橋梁修理約二百五十、この間主力の交戦實に九十二回に及べり。その戦果の主なるもの左の如し。

鹵獲品(破壊せるものを含む) 火炮約三百三十門、機關銃約五百五十挺、戰車(裝甲車を含む)約二百五十輛、自動車約三千六百輛、糧秣、燃料車自活に十分なる量、俘虜約八千、遺棄死體約五千

ロンドン政府當局の發表によれば、マレー東西兩戰線より怒濤の如く殺到した日本軍は三十一日遂にマレー最南端の要衝ジョホール・バハルへ雪崩れを打つて

突入、こゝにマレー戦線も英軍大敗北に終了し日本軍大軍は英軍最後の牙城シンガポールに向て總攻撃の態勢を整へつゝある。又サンフランシスコよりの放送によれば、シンガポール島へ退却せる英軍は同島北岸に集結してをり、三十一日午後から日英兩軍間に猛烈なる砲撃戦が展開され、彼我の砲聲は殷々として全島を震駭して悽慘なる情況を呈してゐる。

わが陸軍航空部隊はシンガポールに對し第五十三次大空爆を敢行し、陥落一步前の同市軍事施設に對し三十一日の如きは四回猛爆撃を行つてゐるが、同航空部隊の偵察によると、ジョホール水道の鐵橋は長さ四十乃至五十メートルの爆破が二箇所行はれてゐる。さらに五萬トンの収容力を持つセレタ軍港の浮ドックはわが爆撃により沈没してをり同軍港からの對空射撃は沈黙してゐる。

二月二日

飼料輸入制限規則改正（農林省令第一

三號）銅、鉛、錫等配給統制規則中改正（商工省令第八號）硫黃配給統制規則中改正（商工省令第九號）荷粉糖煮密最高販賣價格指定（農林省告示第五六號）包装用竹皮最高販賣價格指定（商工省告示第一一八號）公布

大本營發表 帝國陸海軍部隊は緊密なる協同の下に一月三十一日未明ベンダ海の要衝アンボン附近の敵前上陸に成功し着々戰果擴大中なり。

各戰線の驚異的進撃と相俟つて三十一日朝全く敵の意表に出た陸の精銳による蘭印セラム島（アンボン）の奇襲上陸作戦は神出鬼没な陸上機動作戦に呼應して海上機動作戦の至妙を發揮したのであるが、蘭印ならびに濠洲の敵陣營に與へた影響は甚大で濠洲政府さへ重要な防禦線を喪失したことを默認してゐる。アンボンはスラバヤに次ぐ蘭印政府の海、空軍重要基地であり、蘭印政府は濠洲にこの基地を貸與、その後アメリカ軍にも使用

させてゐたものである。この地點こそマカッサル東方の最重要基地として彼らの夢想せる日本爆撃行の要衝としてゐたのだ。かくて蘭印防衛はその右手を失ひ、また濠洲はアンボン、ラバウルなど左右の防衛要衝を喪失して重大なる恐怖にその裸身を曝すに至りABC D包圍軍は哀れ崩落のコースを辿りつゝある。

濠洲當局はアンボンに上陸した日本軍は附近を掃蕩しつゝあり、同地附近の飛行場も日本軍に占領されたと發表した。

大本營發表 ビルマ方面帝國陸軍部隊は豪雨を冒して敵の抵抗を撃破し、一月三十一日夕モールメンを完全占領せり。

大本營發表 一、帝國海軍航空部隊はアンボン攻略に策應、三十日大擧バンダ海方面の敵航空基地アンボン、ナンレア、クーバン、コルバノを索敵攻撃し敵機七機を撃墜破すると共にアンボン軍事施設を破壊せり。二、帝國海軍航空部隊は三十日、シンガポール南方スマトラ島東岸

パンカ海峽方面の敵輸送船團に對し攻撃を加へ八千トン級、六千トン級、五千トン級各一隻を大破し、沈没又は航行不能とならしめたり。

大本營發表 二月一日未明航空母艦、甲巡、驅逐艦等よりなる敵部隊マシーナル群島方面に出現したるも、我は直ちにこれを反撃撃退せり。本戦闘において敵甲巡一隻を爆撃大火災を生ぜしめ、敵飛行機十一機を撃墜したる外、他の艦艇に若干の損害を與へたり。我方は小型特設艦船一隻中破したる外、その他の艦船ならびに陸上施設に輕微なる損傷を蒙り、合計二十八名死傷者を生じたり。

大本營發表 マレー方面の帝國陸軍航空部隊は、一月三十一日午後大舉シンガポールを攻撃しセレンタール飛行場、重要諸施設を爆砕するとともに、シンガポール島上空において、ハリケン十九機およびバツファアロー二機と交戦しその十三機（うち不確實三）を撃墜せり。我方自爆せ

るもの戦闘機一なり。

日本の新統部隊がマニラ灣頭コレヒドール要塞に上陸敢行の態勢をとり、マニラ南岸の森に面した要塞から撃ち出す大砲と、〇〇に集結する日本軍からの砲撃で彼我の戦闘は酣で、沖合には無数の日本軍の艦艇や傳馬船が嵬集してゐる。一方陸上ではマニラ灣の北西で日本軍の強力部隊がバタアン半島の一角に防備線を布る米比軍の中央を衝き、終日激烈な砲撃戦が展開された。

### 二月三日

布帛製品販賣價格指定昭和十六年三月告示第二六一號中改正（商工省告示第一二〇號）蚊帳等最高販賣價格指定昭和十六年十二月告示第一二〇七號中改正（商工省告示第一二一號）シャツトル最高販賣價格指定（商工省告示第一二二號）書簡用紙最高販賣價格指定昭和十六年十一月告示第一〇三二號中改正（商工省告示第一二三號）組合セ又ハ詰合せ物販賣價格

指定（商工農林省告示第一號）公布

侯爵 徳川 義親

永田 秀次郎

村田 省藏

砂田 重政

陸軍省ノ事務ヲ囑託ス（各通）

尙永田、村田、砂田の三氏は特に親任官ヲ以テ待遇セラレ

第二十九回支那事變生存者論功行賞（陸軍第二十四回）は三日賞勳局ならびに陸軍省から左の如く發表された。今回恩賞の光榮に浴したものは左記部隊に屬する軍人（將官を除く）および軍屬と既に發表された部隊に屬する一部の將官（佐官で奏功しその後將官に進級した者を含む）とでそのうち金鷄勳章を授賜されたものは四百七十八名、殊勳甲は原田宇一郎少將以下全部で十五名で、なかに功三中綬に輝く半島出身の金錫源中佐が武名を連ねてゐる。

一、支那における各集團の通信諸部隊全

部

二、戦地において功を樹て爾後内地の軍隊に轉屬しその轉屬部隊より上申せられたる支那事變關係者の大部

三、滿洲警備に任じたる五部隊

二月四日

造船事務ニ關スル所管等ノ戰時特例ニ關スル件(勅令第六八號) 普通陸型フライス盤(輸入品ヲ除ク) 販賣價格指定昭和十六年二月告示第一一三號中改正(商工省告示第一二五號) 麻最高販賣價格指定昭和十六年七月告示第五九二號中改正(商工省告示第一二六號) 公布  
大本營發表 帝國陸軍部隊は、一月二十四日北部英領ボルネオの要衝タワオを完全に占領し邦人五百八十七名を救出せり。

モールメンの陥落後、重慶の咽喉を扼する要衝ランゲインの運命も危機に瀕しつゝあり、英軍は漸次に印度兵を増派して日本軍のサルウイン河渡河防止に躍起

となつてゐるが、日本軍は既に背後より迂迴して小隊となつて續々河を渡り、防衛英軍新陣地の背後に出でつゝある。陥落一步前の運命に立ち至つたシンガポールの敵空軍は、連日晝夜の差別なく襲ひかゝる我が空軍の前にはもはや抗する力なくシンガポール殘存の敵防軍はスマトラ島に待避し、ゲリラ戦を企圖しある程度に顛落した模様である。この敵空軍の弱勢は、諸情勢を綜合しても判然としてゐるが、去る三日我が陸軍航空部隊のシンガポールを攻撃に際しても、同地の各飛行場に敵機は一機も見當らず、テ

ンガーセレター飛行場にある大型十數機も破壊機か、あるひは偽行機であることが判明した。

二月五日

纖維屑配給統制規則中改正(商工省令第一號) 纖維製品製造制限規則中改正(商工省令第一號) 纖維製品製造制限規則第一條ノ規定ニ依ル種類指定昭和十四年

九月告示第二二三號中改正(商工省告示第一三一號) 公布  
徳島縣書記官 田上辰雄

任内務事務官

大本營發表 一、マレー方面帝國陸軍航空部隊は戰爆連合の大部隊をもつて二月三日二回にわたりシンガポール大爆撃を敢行し、埠頭諸施設およびキングスドック附近を爆碎し、大火災を生ぜしめ且つ碇泊中の輸送船團を猛襲し大型輸送船一隻を炎上せしむるとともに、大型一隻中型三隻その他中(小)型汽船多數に多量の命中彈を與へ全機無事歸還せり。この日戰團隊は敵機の片影をも認めず悠々制空の後歸還せり。二、ビルマ方面帝國陸軍航空部隊は同三日二回にわたり戰爆連合の大部隊を以てビルマ領トンギー南飛行場を急襲し大型爆撃機一機、戰闘機六機を爆碎せり。我に損害なし。三、二月四日有力なる我陸軍航空部隊は大編隊をもつて午後一時ランゲインを空襲しラ



ングーン市街軍事施設を爆砕せり。また他の一隊は午後二時二十三分レグ飛行艇を急襲し飛行場諸施設に多數の爆弾を投下せり。

大本營發表 マカツサル海、ジャバ海、フロレス海、モルツカ海、バンドダ海の全面の制壓中の帝國海軍航空部隊は、二月三日大舉ジャバ島の主要航空基地スラブヤ、マラン等に對し大空襲を決行、敵機八十五機（内不確實六）を撃墜破し、所在敵航空兵力の大半を撃破せり。本攻撃において我方自爆一機、いまだ還らざるもの三機なり。また一方二月一日より三日間に亘りジャバ海西部を索敵攻撃し敵船六千トン級、三千トン級各々一隻を撃沈せり。

三日バタヴィヤから當地に達した報道によると、日本航空部隊はジャバ島の軍事目標に對して大規模な攻撃を開始した。すなはち蘭印軍司令部は三日次のごとく發表した。日本航空部隊は間斷なく

活動を繼續、三日朝には、スラブヤ飛行場を空襲し、同地の海軍施設と飛行場にあつた水上機に對し大損害を與へた。また日本航空部隊はマラン、マジウン、マガタンを攻撃した。またロンバンも同様爆撃と機銃掃射を受けたほか、カンポンを始め多數の地點が日本機の攻撃を受けた。

サンフランシスコよりラジオ放送によれば、日本航空部隊の大編隊は四日朝來三回にわたり、スラブヤを空襲し各重要地點に巨彈の雨を浴せ、市街を猛火に包み、殊に空軍基地は完膚なきまでに爆砕された。

ジョホール水道を隔て、シンガポール島の敵と對峙中の我軍は四日午後六時砲門を開き歴史的なシンガポール島攻撃の火蓋を切つた。折柄沛然たるスコールが水道一帯に襲來、その中に砲聲鼓々と轟き渡り凄絶を極めてゐる。

ビルマ南方の戦線はますます熾烈を極

め、サルウイン河口より更にバアンに至る八十キロの前線において隨所に激戦が展開され、日本軍奇襲部隊はサルウイン河口の敵前上陸に成功し、四日來ツヤンソソ北方に續々上陸し、バアンに上陸した部隊は○に防備軍を布き必死の抵抗を試みんとする英軍に對し猛火を浴せつゝ前進中である。なほラングーン軍當局では日本軍の増強大部隊が續々到着せる報に狼狽し、英軍の戦意すでに喪失し、戦々兢兢たる有様である。

ロンドンBBC放送によれば、ラングーン英軍當局は日本軍前哨部隊がバアンにおいてサルウイン河を渡河したことを確認した。但し右はまだサルウイン河西岸に足場を作り上げたといふほどのものではない旨附言し、かつ英軍も同様、東岸に渡河したと稱してゐるが、いづれにせよ右は日本軍の渡河成功を英側が確認した最初の報道であり西岸陣地の不備を暴露したものと注目される。

二月六日

簡易生命保險法中改正（法律第一號）軍馬資源保護法施行令中改正（勅令第七八號）石炭増産獎勵金交附規則中改正（商工省令第一二號）國民職業指導所監査規則（厚生省訓令第一號）炭酸マグネシア類最高販賣價格指定（商工省告示第一三五號）紡績用革製品及織機用革製品最高販賣價格指定（商工省告示第一三六號）油性塗裝裝擬革品等販賣價格指定（商工省告示第一三七號）公布

大本營發表 帝國海軍航空部隊は前日の蘭印空軍擊滅戰に引續き敵艦隊を索敵中二月四日驅逐艦數隻を伴ふ敵艦隊主力をジャバ海カンダアン島南方三十哩海上に發見、機を失せずこれに猛攻を加へ、戰鬪數刻にして敵蘭巡ジャバ型一隻を轟沈、蘭巡デ・ロイテルを大破、間もなく沈没、蘭巡ジャバ型一隻、並びに米巡マールヘッド型一隻を中破し五千トン級敵船一隻を撃沈せり。本海戦により開戦

以來西南太平洋に策動しつつありし敵艦隊就中蘭印艦隊主力はこゝに事實上殆んど壊滅するに至れり。本海戦において我方一機を失へり。【註】本海戦をジャバ沖海戦と呼稱す。

わが陸軍戰闘機の大編隊は、六日晝までもラングーン飛行場を襲撃、敵の殘存戰闘機二十數機と壯絶な空中戦を演じ、六日午後六時半（日本時間）までにスピットファイヤーP四十型計七機を確實に撃墜した。なほ同日未明三次にわたるラングーン攻撃部隊は、同じく飛行上空にて敵戰闘機八機と交戦し一機を射落したので、この日の綜合戦果は撃墜八機である。

藤原 銀次郎  
竹内 可吉  
大野 龍太  
山崎 巖  
藤山 愛一郎  
海軍省顧問を委囑す

右五氏は南方占領地に關する海軍の軍政顧問を委囑せられたるものなり

二月七日

獸醫師職業能力申告令施行規則中改正（農林省令第一四號）軍馬資源保護法施行規則中改正（農林陸軍省第一號）俘虜郵便規則中改正（逓信省令第一二號）日本新聞會定款（内閣内務省告示第四號）滿洲産混保大豆最高販賣價格指定（農林省告示第六四號）小麥及小麥粉最高販賣價格指定昭和十五年一月告示第一號中改正（農林省告示第六五號）肌着用綿布販賣價格指定昭和十五年七月告示第三二七號中改正（商工省告示第一三八號）石炭用ベルトコンベヤ最高販賣價格指定（商工省告示第一三九號）中古和洋裝品最高販賣價格指定（商工省告示第一四〇號）莫大小製品販賣價格指定昭和十五年十二月告示第七八二號中改正（商工省告示第一四一號）毛莫大小製品販賣價格指定昭和十五年十二月告示第七八一號中改正（商

工省告示第一四二號) ステープルファイバー莫大小製品、綿莫大小製品及人絹莫大小製品最高販賣價格指定昭和十六年六月告示第五三四號中改正(商工省告示第一四三號) 毛織物既製販賣價格指定昭和十六年三月告示第二〇〇號中改正(商工省告示第一四四號) 梳織織物既製販賣價格指定昭和十六年六月告示第五三三號中改正(商工省告示第一四五號) 更生糸織物既製販賣價格指定昭和十六年十月告示第九二一號中改正(商工省告示第一四六號) 公布

大本營發表 その後の詳報に依ればジャバ沖海戦々果發表中の米巡マールヘツド型一隻大破、蘭巡ジャバ型一隻中破は蘭巡ジャバ型一隻大破なるほか、さらに蘭輕巡トロンブ型一隻を大破せること判明せり。

米の甲級巡洋艦艦  
九千五十トン、乗員約七百、長さ五百六十九フィート、幅六十六フィート、

吃水十七フィート、備砲八インチ砲九門、五インチ高角砲四門、搭載機四機、速力三十三ノット、ヒューストン、オウガスタはこの級に屬する。

#### 蘭印トロンブ型

トロンブ型は三千五百五十トン、長さ四百三十三フィート、幅四十フィート、吃水十五フィート、速力三十三ノット、五・九インチ砲六門、四十ミリ高角砲七ミリ高角砲四門、二十一インチ魚雷發射管二門、搭載機一機

#### 撃沈せり。

大本營發表 開戦以來一月三十一日までに帝國海軍の確實に撃沈せる敵潜水艦累計二十九隻、敵船舶累計五十二隻(三十一萬トン)なり。

大本營發表 帝國陸軍航空大部隊は昨日悪天候を衝いてバンカ島(シンガポール東南方約四百キロ)ムントク飛行場

を大舉強襲、敵機二十八機を撃墜破し、マレー方面より敗退せる敵空軍の大半を撃滅せり。我に損害なし。

大本營發表 帝國陸軍部隊の開戦以來南方および香港方面における、二月六日まで判明せる綜合戦果左の如し。

一、鹵獲品 飛行機二十四機、戦車(裝甲車を含む)二百二十四輛、火炮五百八門、機關銃一千四百九十二挺、銃機一萬九千三百一挺、自動車三千七百五十六輛、鐵道車輛一千三十七輛、船舶三百七隻、その他各種軍用器材、燃料、糧秣等多數

二、撃墜破飛行機(墜撃確實なるもの) 四百四十四、その他不確實なるもの相當あり。撃破四百七十機、計九百十四機

三、撃沈破艦船 九十二隻  
四、俘虜 二萬二千三百七十一、遺棄死體七千七百  
五、わが軍の損害 戦死傷三千八百八十

二(マレー)方面は調査未了につきこれを除く)飛行機百五十三機、輸送船沈没十隻、破損十六隻(うち六隻修理完了すでに就航しあり)

嚴冬季が訪れて以來守勢に出て局部的に後退さへしてゐた東部戦線の獨軍は、こゝ數日來やゝ大規模な逆襲に轉じた模様で、五日六日と連續して獨軍發表は中部戦線における獨軍の包圍殲滅戰の成功せることを報告してゐる。六日の發表によれば獨軍は存力な空軍の協力の下に中部戦線クルスク東北方で赤軍の有力部隊を包圍し赤軍に甚大な損害を與へた。すなはち捕虜二百九十四人、内に赤軍師團長一名もあり。赤軍戦死者千四百五十名、戦車六、大砲二十五を撃破、その他多數の兵器彈藥を鹵獲した。

東部戦線中部方面において赤軍二個師團の主力は獨軍のため包圍殲滅された。この戦闘において大砲十五門、機關銃四十四、挺手榴彈等が我が軍の手に鹵獲さ

れた。最近二週間の赤軍一軍團との戦闘において赤軍戦車八十臺、大砲三百門、機關銃一千挺、トラツク四百臺がそれぞれ鹵獲あるひは撃破された。赤軍は加ふるに多數の捕虜の他に一萬八千名以上の戦死者を出した。

東江沿岸惠州方面の掃蕩戰は丸岡部隊その他有力部隊の奮闘により多大の戦果を収めて七日朝堂々惠州を撤去した。戦果左のごとし。

遺棄死體四百八十、鹵獲品チエツコ輕機五、同彈丸七千、小銃七百三十三、同彈藥一萬、迫撃砲彈七百、手榴彈二百六十、機雷三百、その他多數

わが〇〇部隊は新黃河附近に蠢動する敵敗殘軍を掃蕩中であつたが、五日淮陽東方二十キロ附近に蟠踞する敵遊撃隊約六百および杏載附近の二百を攻撃、それら撃破潰走せしめた。戦果左のごとし

敵遺棄死體三百三十三、捕虜二十八、小銃百四十、同彈丸七百四十四

大本營發表 帝國陸軍部隊の一月三十一日より二月六日までにおける各方面の戦況次の如し。

一、マレー方面

(一) 開戦以來五十五日、海上機動六百五十キロ、陸路千キロを踏破して一月三十一日夕シンガポール島對岸に進出せるわが陸軍部隊は、所在の殘敵を掃蕩しつゝ更に爾後の行動を準備中なり。

(二) 陸軍航空部隊はその主力を以て地上作戦に密に協力すると共に晝夜を分たずシンガポールに進攻して大爆撃を反復し地上軍事施設を爆破すると共に殘存敵機十七機を撃墜破せり。開戦以來シンガポールに進攻する實に六十四回におよべり。

二、ビルマ方面

(一) サルウィン河に沿ひ西進せる我が部隊はモールメン南側高地による敵を撃破し一月三十一日夕モールメ

ンを完全に占領し、二月二日グヱイ方面より北上せる部隊を合せ引續き爾後の行動を準備中なり。モールメン攻略の戦果左の如し。

鹵獲品 飛行機一機、戦車(装甲車を含む)七輛、火炮四門、機關

銃七挺、自動車二百五十六輛、鐵道車輛二百五輛、航空用燃料多量

俘虜百四十八、遺棄死體二百二十

五

またサルウイン河中流の要衝パアン方面に作戦せる部隊は二月四日拂曉パアンを急襲し約五百の敵を一擧に擊破して同市を完全に攻略し引續き戦果を擴張中なり。

(二) 陸軍航空部隊は地上作戦に協力してモールメン、マルタパン等要地攻撃を容易ならしむるとともにしばしば戦爆連合の大部隊をもつてラングーン周邊の敵飛行基地を強襲しビルマ英空軍再建企圖を破潰しつゝあ

り。この間における戦果左の如し。

擊墜確實なるもの十七機、擊破三十二機、計四十九機

開戦以來ビルマに進攻すること實に四十五回に及べり。

三、比島方面

(一) バタアン半島西海岸方面のわが部隊は二月一日バガック東方の敵第一線陣地を突破したるのち引つゞき

密林内の縱深陣地に對し戦果を擴張しかつ舟艇機動部隊をもつてカナス岬方面に上陸を敢行して同地附近の敵を攻撃中なり。また東海岸における我が軍は依然當面の敵陣地を猛攻中なり。一月二十一日マウパン(モ

機二機を擊破せり。

四、蘭印方面

蘭領ボルネオ方面に作戦中なる帝國陸軍部隊は一月三十一日夜有力なる部隊を以てボルネオ島東岸の要衝タナグロ

ゴトに上陸しこれを占領せり。また遠くパンダ海方面に作戦せる帝國陸軍部隊と協力して一月三十一日未明アンボン島に上陸し所在の敵を掃蕩中なり。

五、ビスマルク群島方面

ラバウル上陸後引續き島内の既定作戦を續行中なる我が部隊は二月二日以来舟艇機動により東海岸ワイド灣北岸一帯の地區を掃蕩せり。その戦果左の如し 俘虜四十せ、遺棄死體百九十一、

機關銃その他兵器資材多量

なほ同島副總督は我に投降せり。

六、英領ボルネオ方面

北部英領ボルネオ方面に作戦中なる我が部隊は一月二十四日要衝タワオを急襲してこれを占領し同地に監禁中の邦

人五百八十七名を救出するとともに二月四日(タワオ北方百キロ)を占領せり。かくて英領ボルネオの概定作戦は概ね完了せり。

七、占領地の状況

占領地の治安は着々回復せられ建設は漸くその緒に就つゝあり。同地住民は皇軍の眞價を認め治安維持及びその他の復舊工作に従事しつゝあり。また開戦と同時に英軍官憲に強制連行せられ或は自ら山中に逃避しありたるマレー各州「サルダン」及び「ジャヤ」は皇軍の眞意を諒解し今や積極的に歸來して我が軍政統治に協力しつつあり。

一月八日

大本營發表 帝國海軍航空部隊は二月五日第二次スラバヤ大空襲を敢行し蘭機十五機、米機十一機を撃墜破し、またバリ島デンバラン飛行場を攻撃し敵機八機を撃墜破せり。

大本營發表 ビルマ方面帝國陸軍航空

部隊は、二月六日大舉四次にわたりミンガラドン飛行場に反復進攻し、敵機九一機と交戦その十二機を撃墜しかつ飛行場重要諸施設を炎上破壊せり。

獨軍司令部八日正午發表

一、東部戦線においては一大攻防戦が騒續されつゝあり。獨軍は赤軍數個部隊に反撃を加へこれを潰滅せしめた。

一、西北地區において獨歩兵第二百六十九師はよく優勢なる敵軍の攻撃を支へ過去四週間にわたり敵軍を撃退すると二百二十回に及んだ。

一、一月三十一日より二月六日に至る一週間に獨軍はソ聯機二百三十九機を撃破したが、其内百十七機は空中戦において撃墜十八機は地上において破壊した。同期間中獨側は十三機を喪つた。一、七日獨戦闘機編隊はヘリゴランド附近において襲撃し來つた英爆撃機五機を撃墜した。

ドイツ政府はドイツ當局との緊密な

協力の下に、復興に努力しフランスも漸次蘇りつゝあるが、昨年末までの主なるものゝ復興状態は次のごとし。

一、破壊された鐵橋、陸道及び踏切の八割は再建され一割五分は修繕された。

一、破壊された橋梁二千五百三十二のうち内五百八十七は再建され一千三百二十七は修理を完了した。

一、戦争中運河は延長距離五千二百キロ使用不可能となつたが、昨年末までには殆ど全部修理。

ロンドンよりロイター電によれば米海軍省は八日太平洋西南地域作戦に關する海軍異動を左の如く發表した。從來濠洲ニュージールランド近海の米艦隊は濠洲軍司令官中將エツチ・リアリーの指揮下に置き殘餘のアジア艦隊は新しく米西南太平洋聯合軍司令官ハートはリアリー・グラスフォード兩司令官を指揮する権限を持つことになつた。